

GUNDAM

MS HISTORICA

ガンダム
MS歴史リカ

抹消された試作機群、第2世代MSの登場……
ガンダム開発譚『ガンダムの世紀』、
いよいよ佳境に！

ガンダムの世紀

皆河有伽

第3回 ガンダムという名の利権

GUNDAM SIDESTREAM

ガンダム・サイドストリーム

第3回 SDガンダム・テレビアニメ編

GUNPLA Revelations

～ガンプラ30年の歩み～

第3回 技術の粋を結集した
究極のガンプラ、PG

翼を得たガンダム特集

高みへの飛翔

MSZ-006 Zガンダム LM314V21 V2ガンダム

Y. Kato
2010/5



高みへの飛翔

伝説のMSガンダムは、しなやかに加速を得て、
何者よりも速く、雄々しく羽ばたきしめる。
待ち受けるは青く広がる宇宙。そして果々の決戦の瞬間。
白き機体が今、はたけを切り裂き、高みへと飛翔する——

MSZ-006 Z-GUNDAM
LM314V21 VICTORY TWO GUNDAM
LM314V24 V2-ASSAULT GUNDAM
LM314V23 V2-BUSTER GUNDAM
LM314V23/24 V2-ASSAULT BUST



SEED FUNDAM

イラスト：森下直樹

天翔ける翼を持つガンダム

主力兵器となったMSの次なるステップである「移動と戦闘の複合」という命題に、次世代の技術と斬新な発想で応えた機体があつた。その名はMSZ-006 Zガンダム。翼を持ち、宇宙から地上までのあらゆる戦場に対応した機体の神話を造ってこよう。

構成・文：石井 誠

汎用兵器MSの抱える “移動”という問題点

宇宙世紀0087年3月、地球連邦政府の旧敵に抵抗するエウーゴが、サイド7のグリブスにてティターンズが開発していた最新鋭MS、ガンダムMK-IIを強奪。これに端を発し、後にグリブス戦役と呼ばれる、地球連邦軍の内紛が勃発した。この戦いが始まった頃、MS開発はひとつの大きな機微を迎えていた。

宇宙世紀0079年に起こった一年戦争時に、新たに登場した人型戦闘兵器、MS。戦場における兵器の概念を大きく変え、さまざまな戦況に対応しうる汎用兵器として、戦場の1役となつたMSだが、運用上の問題も存在していた。MS自身の特徴として、それは「移動」であつた。

MSは、「宇宙空間ではスラスターを使用して推力を生み出して移動し、地上においては足歩行による“足音”で戦場まで向かふなければならなかった。また、推進剤の搭載量の関係で距離などに比べると移動距離も短かつた。つまりMSは、長距離の単独移動には向いておらず、結果、母艦や輸送機によって戦場近づくまで輸送されて出撃するというプロセスを踏まなければならなかった。おのずと戦闘可能範囲が限定されることとなり、汎用兵器と云われながらも、MSは実質的に局地戦闘における決戦兵器という扱いにならざるを得なかった。

を得なかった。

こうしたMSの弱点を解決すべく、一年戦争当時からさまざまな研究が進められていた。ジオン公国軍のMS-09Dで採用された、熱核ホバー・エンジンによるホバー走行の採用や、人型のスカート内部に多数のスラスターやプロペラント・タンクを搭載するといった目標は、移動の問題を解消すべく採用された技術のひとつであつたと考えらるだろう。

また、一方で、MSを運ぶための利便性を追求したサポート・メカニクの開発も進められ、MSの行動範囲と汎用性は広がりを見せていた。しかし、MSとサポート・メカの2つの兵器の同時運用は、部隊の搭載量の増加や運用人数が増えるといった、新たな問題を巻き起こしていた。

そうした背景から、MSに大きな推力を持たせることで、飛行や足蹴移動を可能とさせようとするアイデアは戦後も研究され続け、やがてひとつの画期的な発想を生み出した。MAからMSへの変形である。

MSの行動範囲を広げる “変形”という発想

宇宙世紀0085年、人型熱核シェ・ト・エンジンにより人型圏内での単独長距離飛行を可能とし、MS戦においてはMSに変形するという機構を持つMA、アッパマーが誕生し、大きな戦果を挙げた。

同機の話線と時間を同じくして、MS開発においても、大いなる進化を促す技術革新があつた。MSの運動性と運用性を向上させるムーバブル・フレームと、軽量かつ剛性の高い装甲材ガンダリウム合金の登場である。地球連邦軍が独自に発展させた機構技術と、旧ジオン公国軍で研究されていた装甲材は、両陣営のいずれでもなく、エウーゴにおいて融合する機会を得た。

ふとしたきっかけからエウーゴに参加していた少年パイロット、カミュ・ビダンは、工業系の技術にも精通しており、ムーバブル・フレームとガンダリウム合金を用いた次世代のMS開発プランを提案。それがかねてより可変MSの研究・開発を進めていたアナハイム・エレクトロニクス社の「Zプロジェクト」に採用されたことで、開発が一気に進む。

そのプランは、MSがウェイブライダーと呼ばれる、大気圏に単独で突入可能な飛行形態に変形可能な機体構造を持つことにより、宇宙→大気圏→空中→地上という異なる戦場で単機で連続運用できるようになるというものであつた。

こうして、MS史初めでの、可変機構を持つ機体、Zガンダムが完成した。同機の誕生によって、MSは進化上の大きな転機点を迎えた。汎用兵器としてのMSの存在感はさらに大きくなり、多岐にわたる要求に単機で応えられる、高機かつ高性能な機体が求められる時代が訪れたのである。

Zガンダムを生んだMSたち

Zガンダムの誕生に大きな影響を与えた、アナハイム・エレクトロニクス社製のMSたちを紹介する。

A&E社では、宇宙世紀0083年頃から「Zプロジェクト」と呼ばれる、MA結の出力を持った、次世代MSの開発が

行われていた。新技術や新機構を組み込んだ、3機のMSでのトライアルを経て、Zガンダムは誕生したのだ。

RMS-099 リック・ディアス

新兵器開発計画「Zプロジェクト」を用い、プロペラントの増大と機体の軽量化による機動性の向上を図れた。ガンダムと同等の機体



MSA-005 マスタ

実用機としての運用に開発された試作機。MS形態から新変態機構への発見・発明が可能。MA形態時には、高い運動性能を誇った。

MSN-00100 百式

Zガンダムの設計候補機の一つ。変形機構の採用は見送られたが、高い完成度を持つガンダム的な機体



SPEC

全高 19.8m
全長 19.25m
ウェーブライダー形態時
全長 24.32m 翼幅 18.63m
本体質量 28.7t
全機質量 62.3t
・レクター出力 2,000kW
・スター電力 112,600kg
(12,200 × 5, 10,600 × 2, 7,600 × 4)
装甲材質 ガンダリウム合金
センサー有効半径 14,000m
武装 機関(1/6カノン砲×2
2連装グレネード・ランチャー×2
ワイヤー弾ランチャー
ビーム・サーベル(ビーム・ガン専用)×2
ビーム・ライフル(ビーム・セイバー専用)
ハイパー・メガ・ランチャー
ソールド ミサイル内蔵

イラスト:小笠原智史

MSZ-006 Z-GUNDAM

戦場が求めた可変MS配備

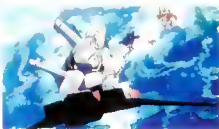
Ζガンダムの開発が急ぎ、チて進められた理由には、可変MSが持つ可能性の高さが挙げられる。エウゴの行ったシャプロ降下作戦におけるライオン・アーマーとガンダムMk IIの連動した運用は、宇宙空間から大気圏にかけての戦場で、際立った戦果を挙げた。

一方地球側では、可変MSの1対多戦術の広さか、サブ・フライト・システムを必要とするMSのそれを完全に1回るといえる現象が生じていた。一年戦争時とは比較できないほど小規模の戦力同士が、つばぜり合いを繰り返していたグリプス戦役中期までには、MAやMS 機あたりの性能は、戦局の行方を左右するものだった。

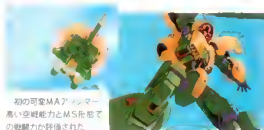
こうした状況が背景にあったため、エウゴ、

ティターンズの両陣営は可変MSの大規模配備を急ぎ、その結果グリプス戦役の戦場は、ワンオプ的に造られた多種の可変MSが戦い合うように見舞うという、特殊な様相を呈した。

その中でも特にΖガンダムは、次世代のMSに強い影響を与える戦術を見せたのだ。



宇宙から地上へと移るなか、ガンダムはMAとサブ・フライトの運用は、他のMSを圧倒する戦果を残した。



初代可変MSアッシャー。高い空戦能力とMS形態での戦力発揮が特徴だった。



宇宙空間と大気圏内、いずれにおいても卓越した性能を発揮するM.A.キャプラン。



Basic Knowledge of G

グリプス戦役後期の状況

ティターンズとエウゴの戦いに、旧ジオン公国軍残党アクシスが介入。派生の度合いを増すグリプス戦役後期の状況を解説する。

さらなる派生した状況を生んだ三つ巴の戦い

地球至上主義を掲げてスペースノイドを弾圧するティターンズと、スペースノイドの地位向上を図るべく戦いを挑んだエウゴ。

当初のグリプス戦役は、エウゴとティターンズという戦力的に異なる主義主張を持つ陣営を背景に形勢が、地球連邦軍内における主導権争いであったが、中期以降はその関係が大きく変化していく。

グリプス戦役が激化していく最期の段階となったのが、水素推進船ジュビトリスの降参。水素での推進機構を採る、地球圏に重ったジュビトリスの船長バテマス・シロッコ、彼は、ジュビトリスの持つ戦力と技術を持続したままティターンズへの参加を表明。独自に開発した可変MAを駆り、連軍部隊的にグリプス戦役に参加する。しかし、その本当の目的はティターンズを襲撃取り、エウゴに勝利して地球圏を掌握することだった。

そうした流れの一方で、エウゴも大きな転機を迎える。指導者であるブレックス・フォーラ准将がティターンズの手にによって暗殺されてしまったのだ。指導者を失い、エウゴの士気は下がるかに思えた。しかし、ジオンダイクンの選出であり、かつてシャア・アズナブル（赤い頭巾）の異名を取る、旧ジオン公国軍の遺跡バグロットとして知られていた）とを名乗っていたキザ・バグレル・ダイクン（クワトロバジーン大尉として連邦軍に参入し、エウゴに参加していた）がその正体を明かし、エウゴを支援することを宣言。その結果、スペースノイドの地位向上というイデオロギー闘争の方向性がより明確になるのだった。

ティターンズとエウゴの闘争が熾くさなか、地球圏を離れ、アステロイドベルトに潜伏していた旧ジオン公国軍残党の本拠地であるアクシスも、地球圏に帰還する。その目的は、地球連邦軍の内紛に暴れた、地球圏での本格的なジオン再興であった。

アクシスはまず、かつて同盟であったシャアが率いるエウゴに接触。ティターンズ打倒に向けて共同戦線を築く。しかし、同時にティターンズとの交渉の道にも動くというたかきを見せた。

一方ティターンズでは、アクシスとの接触時の混乱に乗じて、バテマス・シロッコが指導者であるジャミトフ・ハイマン中将を暗殺し、組織の基盤を手中に収める。

こうして、政治的な思惑の対立から始まったグリプス戦役はその本来の目的から離れ、派生の度合いを増していった。

戦いの変質と第1次ネオ・ジオン戦争

三つ巴の争相で進行した後期のグリプス戦役後期だが、コロニー・レーザーを運ぶ戦いでティターンズとエウゴは同盟を決する。エウゴは幸くもこの戦いを制し、

ティターンズを激進に追いやった。だが、指導者であるシャアが戦場中に行方不明となり、エウゴの戦力自体も限界に達していた。アクシスは連邦軍の内紛のその後を目の肥らせた戦力を活かし、グリプス戦役終結後に、ネオ・ジオンを名乗って地球連邦軍に宣戦布告すると共に地球に侵攻。第1次ネオ・ジオン戦争が勃発する。

スペースノイドの地位の確立をかけた戦いは、ジオン再興を運ぶものへと変質していったのだ。

勢力相関図



ティターンズ

指導者：バテマス・シロッコ



傘下に収めたジュビトリスに実権を掌握される

シャミトフ・ハイマンを暗殺し、新たな指導者の座につく。ティターンズの思想を刷新しながら、自身の野望実現のために軍を動かした。

エウゴ

指導者：シャア・アズナブル

タカールでの演説により組織の理念を明確化

暗殺されたブレックス・フォーラに代わって新たな指導者となり、ティターンズとの戦いを仕切り直し、

一時協力するが、後に敵対

アクシス

指導者：ハマーン・カーン



内紛を契機にジオン再興を断念

ジオン再興を断念し、グリプス戦役を利用する。エウゴとティターンズの決戦に際しては、地球連邦軍の戦力を大きく弱くすることに成功する。

Zガンダムの設計思想

MSの運用思想を大きく変えるほどの存在となったZガンダム。その特異な機体構造に込められた設計思想を解説していく。



Zガンダムの機体は各部分
独立したモジュールとなっ
ており、確かな運用システムを
持ちながらも生産性が高く、
多くのバリエーション機の誕
生につながった。

Zガンダムの構造とジェネレーターの配置

MSからWRへの良質な変形と、高機動性の確保
それを実現せしめたのは、独自の機体構造の設計とジェ
ネレーターの配置によるところが大きい。

既存のMSでは胸部や腰部に置くことの多かったメ
イン・ジェネレーターを、Zガンダムでは腹部に配置
している。この発想の背景は、Zガンダムの設計に大
きき自由度を与えたことにつながった。

動力源を抱え込む必要がなくなった胸部や腰部は、実

機機構が集中する部位でもある。そこにはムーブメカニ
ズムが中心に据えられ、変形の効率をアップさせている。
また両側には、熱核ジェット、ロケット・エンジンと
しても使用する大型のメイン・ジェネレーターを配置
することで、高出力を得ることに成功している。

そして、Zガンダムで示された機体各部のモジュール
化という機体構造は、製造の効率化による、後の可変
MSの普及化の可能性さえもうかがわせるものだった。

★ 1

★ 1

ウェイブライダー

衝撃波に“乗る”能力を機体名に持つWR。それはMS運用範囲を大きく広げる“可能性の翼”だった。

ウェイブライダーの機能

WR形態は、2つの機能を持っている。まず、単独での大気圏突入を可能とする能力。WRという名称自体が、大気圏突入時に発生する衝撃波を機力とするために付けられている。そして副次的に、航空 航空戦闘機としての飛行性能が追加されている。だが脚部のメイン・スラスターとテール・スタビライザーが生み出す機動性の高さは、戦闘機として大気圏内や宇宙空間での高速戦闘を可能とするほどのものだった。ゆえにZガンダムは、宇宙から大気圏、空中、地上と、あらゆる局面に対応する機体として高く評価されたのだ。



重力に引かれた宙返りを敢て、再突入中のWR。自機のみならず、他のMSの大気圏突入をサポートしたり、大気圏内でのMS用サブ・フライト・システムとしての運用も可能なのだ。

★ 1



大気圏内においては、航空戦闘機として高い機動性を発揮。初のMSによる完全自律飛行を実現したこと。地上でのMS戦闘に大きな影響をもたらし、宇宙機の開発が進められることになった。

宇宙空間でも前面戦闘機として、高速度での高速な形態転換を。船と船の交戦が一瞬の差となし、多シ、をこなす能力を有している。

MSからの変形機構

Zガンダムの変形は、ムーバブル・フレームとガンダリウム合金というふたつの新技術の結晶。フレーム自体が伸縮やスライドをする機能を持つムーバブル・フレームを 変形機構の中心とする上半身の内部に張り巡らし、軽量かつ剛性の高いガンダリウム合金製の装甲を可動させることで変形を行う。マクネット・コーティングの恩恵によってわずか0.5秒という速さで変形が完了するため、変形中に攻撃を受ける可能性は低い。また、外装にシールドを組み込むことで、機体の剛性を高めているのもポイントである。



WRは電形連中のZガンダム。肩部のフライング・ユニットが機体下部に移動し、デルタ状の翼を形成する。

さびの胸部が展開して機体上面に収まるシールド部が機首に配置されることで完了。変形は高速で行われるため、まさに一瞬で形が変わったように見える。



メル・スタビライザーは、MS WRの両肩から機体を変位させる機能を持つ。

★ 2



既存のMSの多くは、バックパックにメイン・スラスターが配置されていたが、Zガンダムでは胸部に配置

飛行能力がもたらした機動性の向上

Zガンダムは飛行能力の向上のため、WR変形後はすべての推進力が機体後方に集中するように設計されている。胸部にはベクター・ノズルとして機能するメイン・スラスターを配置。さらにWR時は後進尾翼として、MS時はスタビライザーとスラスターとして機能するロングテール・バーニア・スタビライザーが設けられることで、WR時はもちろん、MS形態でも高い機動性を発揮する。変形機構がもたらした飛行能力の向上は、MS形態における戦闘能力の増大にも寄与しているのだ。



WRの「アビュー」・スラスターの全長とも収容されているのが見て取れる。MS時の収納は、その質量により姿勢制御とも関連している。

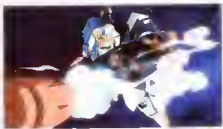


Weapons of MSZ-006

機体の変形機構を考慮しながらも、さまざまな戦場に対応すべく装備されたZカンタムの専用武装の数々。その機能と運用方法を見ていこう。

1 シールド

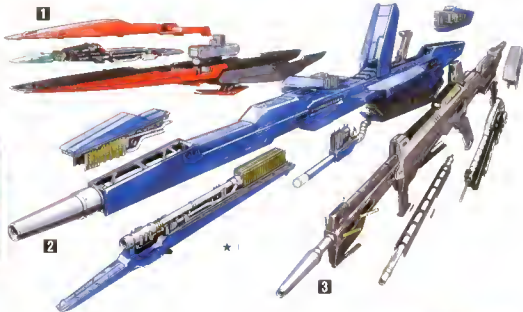
Zガンダムのシールドは、WR形態の機首を構成するパーツでもあり、大気圏突入時にはフェアリングとして機体を保護するという、重要な役割を持っている。そのため強度のみでなく、高い耐熱性も備えている。その鋭角的な形状から、打突用武器としても使用が可能。先端部にはセンサー類が内蔵されるなど、単なる防御用の武器に収まらない機能を持つ。



近接戦闘時に邪魔にならないよう、スライト式の砲小機能を持つ。最下部には、ミサイル・ランチャーを内蔵。



ガンダリウム合金製の鋭角的な先端は、MSの装甲を貫くほどの硬度を持っている。



3 ビーム・ライフル

Zガンダムの主武器となるロング・バレル・タイプのビーム・ライフルは、ビームの収束率を上げ、貫通力を飛躍的に向上させた。WR時には飛行の邪魔にならないよう、バレルが縮まる機構を持つ。また、グリップを折りたたむことで斬身からビームの刃を発生させる。ロング・ビーム・サーベルとして接近戦で使用することも可能だ。



射撃距離が長く貫通力も高い仕様となっている。



長いバレルを活かし敵いが可能なロング・ビーム・サー

2 ハイパー・メガ・ランチャー

Zガンダム専用の武器として開発された、高出力ビーム砲。WR形態時の換装を可能とするため変形機構を持つが、単体での推進機能も有する。戦艦の主砲並みの威力があり、MSが弾を小型のジェネレーターを内蔵しているためエネルギーチャージの時間も短く、戦場での運用性も高かった。



MSの機体活動で十分な威力を発揮する。

MSと大口徑ビーム兵器

ダリブス戦後には、MSに大口徑の火砲を運用させることで、不足しがちな火力を補おうという試みがなされた。その先駆けとして、エーグはメガ・バズーカ・ランチャーを開発。MS単体では駆動することが難しかったが、実戦に使用すると、艦船を動かすよりもはるかに小回りが利き、高機動性を持った小型の砲艦的な威力として有用であった。その後、メガ・バズーカ・ランチャーに改良を加え、より通用性の高いハイパー・メガ・ランチャーが誕生する。



最大出力を得るには機体のMSがエネルギーを供給する必要があるが、機にジェネレーターを内蔵して改良された。

その他の装備



・ シールドは専用パーツで構成されており、それによってWR形態時にはバレルが縮まる機構を持つ。WR時にはバレルが縮まる機構を持つ。WR時にはバレルが縮まる機構を持つ。

機体には固定武装として、2連装のフーサー・ランチャーを内蔵。前鋒部隊にオプション・カートリッジを打撃することにより、高弾速を増やすことも可能。



Zガンダムの遺伝子

MS誕生時からひとつの命題であった“飛行”を実現した機体、Zガンダムが、その後のMSに与えた影響とは？

受け継がれる可変MSの可能性

MSの持つ汎用性をさらに追求し、変形機構を導入することで、MSの概念をさらに進化させたΖガンダム。しかしその戦果を見てもなお、生産コストや運用性の問題、そしてMSをとりまく戦況の変化から、可変MSが戦場の主役になることはなかった。

しかし、変形⁶が開いた可能性の扉は消えることなく、一部の次世代のMSたちに引き継がれ

ていったのである。主力の量産機としては生産されなかったものの、WRをベースに発展していった飛行形態での高速移動能力と、そしてMS形態での対MS戦という連続運用を単機でこなせる機能は、特殊任務を担う部隊においては、重要視されることになる。

また大気圏内での運用においても、MSの移動時間の短縮や幅広いミッションへの対応能力の高さは魅力的であり、可変MSの研究、開発は継続された。

結果、Zガンダムにおいて完成した、機体のメカニカル構造化を基本に、変形システムの簡易化や生産性を上げるための構造変更が行われると同時に、大気圏内での飛行能力を強化した機体や、急速に宇宙空間の戦線を突破する、航宙戦闘機からMSへと変形する機体などが多数登場した。

それらの機体は、Zガンダムの遺伝子を受け継いだMSであり、その「汎用性」を高めた能力を戦場で誇示し続けたのである。

Zガンダム3号機 バリエーション

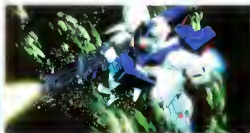
カラバで試験運用されていたバリエーション機群「カムイ」機に続いてアナハイム・エレクトロクス社で開発されたZガンダム3号機をベースとし、仕様や装備の異なる3機が建造されたと言われている。機動性の向上を図った機体、火力増強を行った機体、ニュータイプ専用機として改良された機体という、3つの仕様の異なる機体とされている(『GUNDAM EVOLVE』10「登場」)



その後の Z系MSの系譜

生産コストの高さや操縦の難しさという問題を抱えていたZカンダムだが、航宙戦闘機とMSという2つの機能を併せ持つ構造自体が果たたわけではなかった。MSが戦場の主役となったグリプス戦役以降、主力量産機のサポートやエース用の機体として、Z系MSの量産化に向けた研究が求められた。

U.C0090年代に入ると、生産性や整備性を向上させるためにM5本体の変形機構を保持して、バック・ウェル・システム（以下BWS）を用いた変形機構を持つ試作機、リ・ガシガが完成。そして、主力生産機であるジェガンとのパーツ共用によるコストダウンと、メタをベースとしたより簡易な変形機構を取り入れ、排度の低いパイロットでも稼動可能な機体としてレベレカ、0090年代中葉に駆逐する。Z系3台系の変形可能なM5なら、シム、Z系3台系の系譜に並ぶ本格生産機として制式採用されることで、この界隈は受け継がれていったのだ。



BWS によって飛行形態からMS 形態に変形、変形時にBWSを除去してしまふため、戦況に合わせて形を変える運用ができた。

より効果的な行政機構を創出して、

BATTLE DOCUMENT 03

RECORD

TIME: U.C.0067.11.2

PLACE: キリマンジャロ基地

ENEMY: ティターンズ可変MAサイコ・ガンダム

パイロットはフォウ・ムラサメ

カラバを衛星軌道から支援しようとするアーガマを、ティターンズが急襲。重力に引かれた百式を追うZガンダムは、大気圏突入する。着陸したティターンズのキリマンジャロ基地では、強化人間少女フォウとの再会、そして彼女が操るニュータイプ専用可変MA、サイコ・ガンダムとの戦闘が待っていた。さらに、ジェリドのMSパイアランが、サイコ・ガンダムとの戦闘に介入。大気圏内でも変形機構を駆使した高い機動性と運動性を発揮するZガンダムだが、巨大なサイコ・ガンダムに苦戦を強いられる。サイコミュ兵器、可変MA、高機動MSの乱戦は、最悪の結果をもたらす……。

地上で待っていたのは、
劇的な再会と悲劇だった

大気圏突入！ 吹き荒れるキリマンジャロの嵐



百式を載せて大気圏を突破し、地上へと向かう。



ティターンズの拠点、キリマンジャロに到着。



偶然降参に来ていたジェリドが戦いにかかる。



サイコミュの戦いがサイコ・ガンダムを倒すべく、Zガンダムでサイコ・ガンダムに接近する。圧倒的な力の差、苦戦を強いられる。



カミーユを助けたサイコ・ガンダムをパイアランのチームが襲く。カミーユはフォウを救えなかった……。

BATTLE DOCUMENT 04

RECORD

TIME: U.C.0067.11.18

PLACE: ダカール市

ENEMY: ティターンズ可変MAアッシュマー

パイロットはアッシュ・アンバ



シャアの演説の放送を阻止すべく、ティターンズは市街地での防衛活動を展開する。

繰り広げられる
空中戦！

航空戦闘機としてアッシュマーと空中戦を行うZガンダム。大気圏内でも幅広い汎用性と機動性の高さは顕在。



激闘！ダカール攻防戦

地球連邦政府の議会があるダカールでの、シャアによるティターンズの横暴を告発するための演説。これをめぐり、市街地でカラバとティターンズの攻防戦が展開。放送を止めさせようとするティターンズは、アッシュマーとパイアランを出撃させる。それを牽制すべくZガンダムも出撃。可変MSと可変MAの空中戦がダカール上空で繰り広げられる。WR形態のZガンダムは、爆発的な推進力を誇り、高い空戦性能を持つアッシュマーを凌駕する動きを見せる。そして、この戦いの結果、隠されていたティターンズの横暴が世に知らしめられた――。



サブ・フライト・システムを必要とするMS同士、空中戦において圧倒し続けていたアッシュマーだが、Zガンダムの前に倒れてしまう。

BATTLE DOCUMENT 05

RECORD

TIME: 14:0038.11

PLACE: ゼダンの内部

ENEMY: ティターンズMS、ボリノーク・サマーン

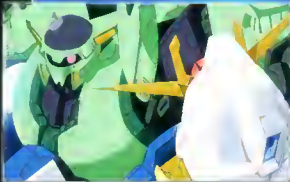
パイロットはサッ・ザビアフ

ティターンズでは、ジャミトフに反目するシロッコが本格的に行動を開始する。一方、旧ジオ軍現役であるアクシズが地球圏に帰還することで、グリス戦役の状況は大きく変わり始めていた。ジャミトフ率いるティターンズは、最後の砦であるゼダンの門に集結。ティターンズの切り札であるコロニー・レーザーを運る戦いが、幕を開ける。

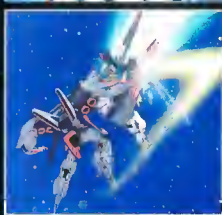
こうした状況の中、特定の機能を強化したハイスベックのMSが多数戦場に投入される。ジュピトリスのジ・0、バラス・アテナ、ボリノーク・サマーン、そしてアクシズのキュベレイなど……。汎用性を高めるのではなく、特定の状況で有利な戦況を展開できるワンオフ的な新鋭機が、Zガンダムを相手に驚異的な力を見せつけ始めるのだった。

激突! ゼダンの門

ハイスベックなどの新機であるジ・0と、それをサポートするバラス・アテナ、ボリノーク・サマーン。



ゼダンの門攻略のために手を組む、エウゴとアクシズ。ニュータイプ専用機であるキュベレイが戦場に出るのを見せた。



新鋭機ジュピトリスや、新鋭機ジュピトリスのパーツを組み込んだ、新タイプの機体も出てくる。

アクシズの介入

BATTLE DOCUMENT 06

RECORD

TIME: 14:0038.11

PLACE: ゼダンの門、月軌道

ENEMY: ティターンズMS、MAサイコ・ガンダム Mk. II

パイロットはロザミア・バダム

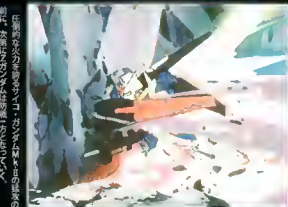
強化人間の悲劇、再び

アクシズの月への落下を止めようとしていたアーガマを、バスクの率いる強化人間部隊が襲撃する。先陣を切るのは、サイコ・ガンダム Mk. II を駆るロザミアだ。Zガンダムは倒すべき敵との暗示を受けた彼女は、Zガンダムを独断に狙う。

記憶を操作された少女パイロットとサイコ・ガンダムという機体が、カミーユの胸にフォウとの辛い記憶をよみがえらせる。やがてカミーユは、ロザミアの悲劇的な叫びを聞き、彼女の乗ったコックピットを撃ち抜くのだった。



闘いの道具となった少女が、また散っていく



「ロザミアは、カミーユの胸にフォウとの辛い記憶をよみがえらせる。やがてカミーユは、ロザミアの悲劇的な叫びを聞き、彼女の乗ったコックピットを撃ち抜くのだった。」



Zガンダムはサイコ・ガンダム Mk. II をアクシズ内に誘い込み、その動きを止めるのに成功するが……



機体別攻撃を行うロザミア。彼女の助けを求める声を聞いたカミーユは、苦悩の末に攻撃することを決断する。

ガンダムの究極進化した形

これまで語られている宇宙世紀の歴史上で、最も進化したテクノロジーを持つ「ガンダム」単独で飛行可能なテクノロジーを持ち、巨大な「光の翼」を現出させるその姿は、ガンダムの名を持つMSが突き詰めた、究極の形でもあった。

構成 文・石井 誠

飛行するMSの壁を越える ガンダムの開発

UC0150年代は、宇宙世紀時代と呼ばれていたコロニーが独立国家争いの自国権を行使し、なかでも強大な力を持ったサイド2のコロニー、アメリカで進出したザンスカール帝国は、地球連邦政府からの脱却と地球の浄化を画し、UC0152年に地球本土への侵攻を開始した(それに至るまでの詳しい経緯は、本シリーズVol.6にて記述する)。

弱体化した地球連邦軍に代わり、抵抗運動の中核をなした民間組織リガ・ミリティア(神聖軍事同盟)は、独自のMS開発・生産計画である「ヴィクトリー計画」をスタートさせ、ガンダムタイプのMSを完成させた。

その名はVガンダム。仏教的な機名を与えられたその機体には、ミノフスキー・フライト・システムをはじめとする新技術が導入され、あらゆる状況に対応し得る汎用型MSとしての汎用性化された設計によって、リガ・ミリティアの大きな戦力となった。



V2ガンダムの開発に携わったリガ・ミリティアの技術者。V2ガンダムのパイロットとなるウソの母もあつた。

しかし、戦力の増強を続けるザンスカール帝国に対し、リガ・ミリティアの持つVガンダムや量産型のザンガイシー、ガンブラスターでは対抗しきれない状況になりつつあった。そこで、Vガンダムをベースに、より強力な機体の開発が行われた。

そのMSは、ミノフスキー粒子が形成する力場の上に乗り、飛行するため、揚力が必要ない長時間にわたって稼働できるミノフスキー・フライト・システムを後継する、新時代の飛行システムを搭載していた。ミノフスキー・ドライブと呼ばれるそのシステムは、ミノフスキー粒子による力場を発生させ、任意の方向に放出し、その推進力によって移動するもので、従来のMSでは不可能だった膨大な推進力を生むことができた。

ミノフスキー・ドライブは、ザンスカール帝国に接収された企業、サナリイの技術者だったミュラ・ミゲルを中心に、ザンスカール帝国に反発するサナリイの一部やA.E.社が共同開発する。こうして完成したMSは、V2ガンダムと名付けられた。

“史上最強の機動兵器”の 底知れない可能性

史上最強の推進システム、ミノフスキー・ドライブを得たV2ガンダムの最大の特徴は、MS誕生時から模索されてきた、“MSの高速飛行”の完全実現だ。この時期に完成していたミノフスキー・フライト・システムやビーム・ローター、ミノフスキー・コントロールなどの技術によって、サブ・フライト・システ

ムに頼ることのないMS単体での巡航飛行は実現していた。すでにこの時代において、MSは単独での運用において、兵器の頂点に立っていたといえる。

しかしV2ガンダムは、さらにそれらを超越する、最強の機動兵器だったのだ。

ミノフスキー・フライト・システムをはじめとする飛行システムの利点は、飛行速度の速さにあった。長距離・長時間の飛行が可能なのもの、移動速度は速かったため、いち早く戦域地域に到着すべく、速度の壁を越えることが求められていた。

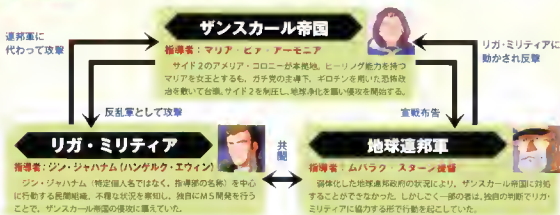
ミノフスキー・ドライブは、その速度の壁を一気に越えることに成功する。同時にMSが追従できないその速度は、理論的には非光速までの加速が可能となり、最大20Gに及ぶ機動力を実現する。また、ミノフスキー・ドライブが作り出す高エネルギー出力は、攻撃能力・防御能力を向上させる追加武装の整備も可能とし、V2ガンダムの持つマルチプル(汎用型)機体を、より拡張することに繋がった。その結果V2ガンダムは、移動速度、攻撃能力、防御能力とすべての面において傑出した性能を発揮することになった。

UC0079年に戦場の伝説となった傑作MS、ガンダムの名を与えられた、歴代の名機たちに込められた思い。極めて汎用性が高く、しかしその時代で最大のMSであることを受け継ぎ、V2ガンダムはまさに、“ガンダムの究極進化した形”とも呼べる機体となったのである。

ザンスカール戦争時の勢力相関図 | ザンスカール帝国による地球侵襲当時の、各勢力の状況と関係を見ていこう。

UC0152年に地球侵襲を開始したザンスカール帝国。この頃の地球連邦軍は組織的に疲弊しており、軍は機能不全に陥り、その戦力も衰えていた。そのため、膨大な戦力と総力で地球に攻めるザンスカール帝国に対抗することができずにいた。

その状況で行動を起こしたのは、リガ・ミリティアと呼ばれる、民間の有志が集まってザンスカール帝国への抵抗運動を行う集団だった。欧州地区で活発な活動を行い、軍事企業などの後ろ盾を持ったリガ・ミリティアは、独自にザンスカール帝国に対して反乱運動を開始し、この戦いは後述「ザンスカール戦争」と呼ばれることになった。



V2ガンダムの設計思想

リガ・ミリティアの抵抗運動を牽引した、マルチプルMSであるVガンダム。そのコンセプトや生産設備、一部パーツなどを継承しながら、最新技術を導入することで、激化する戦いに備えたのがV2ガンダムだった。ここでは、V2ガンダムに込められた思想とテクノロジーを迫っていく。

V2ガンダムのユニット・システム

V2ガンダムはVガンダムと同様に、コア・ファイターを中心に、上半身となるトップ・リム、下半身となるボトム・リムの3つのユニットで構成されている。このユニット構造には、2つの大きな利点があった。リガ・ミリティアのゲリラ活動において、充分なバックアップでのMS運用は期待できず、少人数でメンテナンスを行わなければならないだった。そこで、損耗率の高い腕部や脚部をユニット化することで、パーツの交換を容易にしたのである。また、状況に応じて運用形態が変えられ、腕部、腕部がない状態でもMS形態を取れる設計が施されており、運用の幅が拡大している。さらにはユニットごとに武器として使用する戦法までもが誕生することになった。



破壊された腕部を交換し、新たな戦術を可能にするユニットシステム

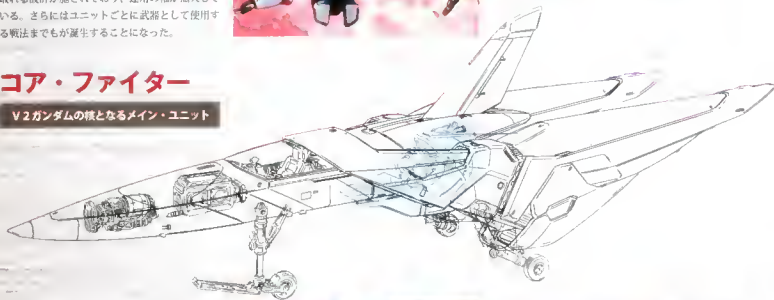


コア・ファイターやボトム・リムは、その重量が大きい。腕部を交換し、新たな戦術を可能にするユニットシステム

各ユニットは無敵圏を持つ。コア・ファイターはMS形態に運用させて、暴走兵器として使うこともできた。

コア・ファイター

V2ガンダムの核となるメイン・ユニット



コア・ファイターはその名が示す通り、V2ガンダムを構成するうえでもっとも“核”となる小型戦闘機である。MS形態においては腰部と胸になり、緊急時の脱出システムとしても機能する。

主推力であり機体移動の主機関であるミノフスキー・ドライブ・ユニットとコクピットを備え、頭部にはセンサーやコンピュータを内蔵している。MSの最重要機関がこのコア・ファイターに集中しているため、機体が大破しても、本機さえ無事であれば、すぐに再出撃することが可能な設計となっている。

ミノフスキー・ドライブが生み出す膨大な推進力で飛行するため、大気圏内でも機体を浮かせるための推力に頼る必要がなく、その形状は水平翼を持たない直線的なシルエットとなった。

その結果、他の航空用高速戦闘機の追跡を許さない速度で飛行することが可能だ。



固定武装は、機頭に装備する2門のバレルガン。機体上部は通常機は胴体部に内蔵されており、発射時は機体上部に露出する

トップ・リムとボトム・リムからも同時に分離可能。戦闘の最中に腕や脚のユニットをそのまま空機に落とすこともできる。



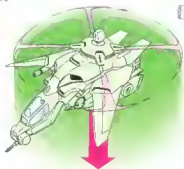
イラスト BEE CRAFT

フライト・システムによる飛行性能の違い

この時代採用された、燃焼機関に頼らない飛行システム その方式の違いを紹介しよう。

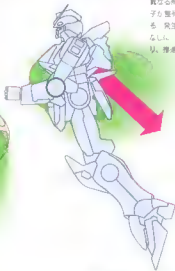
ビーム・ローター

ザンスカール帝国のMSが装備するビーム・ローターは、フィールドの応用により推力を得る「地理上で目標を飛行させることでかきまへ」ローターに近い空戦能力や、増強した推進増速のペイロードを輸送する能力を持つ。推進力はローターの回転に対して垂直方向に発生し、機体はローターをメカ・カナルに懸けることにより行われる。



図解 神北恵太

ミノフスキー・フライト



「ノ・ム・シ・ア」のウ・リ・リ・ガンダムは、この方式と異なる飛行方式、ミノフスキー・フライトで動く。ミノフスキー粒子を照射した重力場が生み出す推力を、重力として利用する。発生したフィールドを偏屈させることにより、メカ・カナルも自動なしに、推進力を任意の方向に向けられる。ただし、出力には限界がある。推進剤を必要とする従来のスラスターと併行運用されている。



ミノフスキー・ドライブ

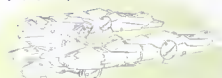
「2」ガンダムに搭載された「ミノフスキー・ドライブ」は、この「ミノフスキー・フライト」の強化版である。ミノフスキー粒子を自ら放出することにより、その出力を機体内に集めた新方式の推進システムだ。ミノフスキー粒子による立格粒子同士の間接利用、機体背面に向かってV字型に伸びた2本のブレードが発生させたフィールド同士が干渉することにより発生した推力を推進力とする。この力を利用し、光の速さでフィールドの偏屈によって、機体自体を推進するビーム・フィールドとして、また、ビーム兵器の威力増強としても使用可能。

トップ・ファイター (コア・ファイター+トップ・リム)

高い戦闘力を持つ重戦闘機形態

上半身を形成するトップ・リムとコア・ファイターが合体した重戦闘機形態。ビーム・シールドやビーム・サーベルが使用可能で、ミノフスキー・ドライブによる高い推進力によって、優れた戦闘能力を発揮する。

トップ・リム



V2ガンダムの上半身から腰部を構成するユニット部分の飛行形態。光学誘導による無敵回避が可能。通称ハンガー。



ハードポイントが4箇所あり、ビーム・ライフルなどの火器を追加マウントできる。



上半身のみの移動も可能。

ボトム・リム

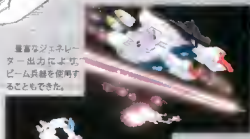


ボトム・ファイター (コア・ファイター+ボトム・リム)

脚部で形成される重攻撃戦闘機

ボトム・リムとコア・ファイターが合体した重攻撃機形態。4つのハードポイントに最大4基のビーム・ライフルを装備することが可能。防御力は低いが、液動的な動きの高速戦闘を得意とする。

V2コア・ファイターの推進力が強化されたため、サブ推進システムを持たないシンプルな構造。めくらましや突進機として使用されることも多かった。通称ブーツ。



ブーツのみを切り離し、遠距離からキック攻撃なども行われた。

メガ・ビーム・キャノン

ハ、ク、クのノズレ
に接続されており、高出力
を誇る長距離砲

スプレー・ビーム・ポッド

近距離にいる敵機
の目標に対して使う
近距離ビーム砲。近衛
型スコープと連動。

マウント

メガ・ビーム・キャノンとスプレー・
ビーム・ポッドを取り付ける部分。

LM314V23
V2-BUSTER GUNDAM
V2バスターガンダム

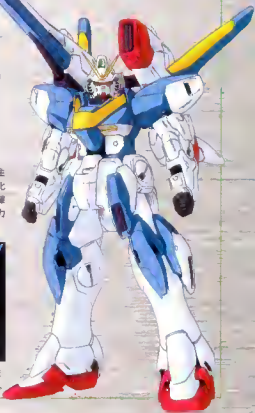
SPEC

武装 ビーム・サークル×2
新翼1/6ガン×2
ビーム・サーベル×4
マルチランチャーバグビーム・ライフルバグ
メガ・ビーム・ライフル
メガ・ビーム・サークル
近衛型射撃
マイクロ・ミサイル・ポッド×6
メガ・ビーム・キャノン
スプレー・ビーム・ポッド

長距離砲のメガ・ビーム・キャノンと主
協調とし、中・長距離での砲撃能力を強化
したパーツを装着したV2ガンダム。前線
に向けて連撃する艦隊や、MS部隊の火力
支援に活躍した。



前線や艦隊に基盤した追加装備には、近距離
攻撃用のマイクロ・ミサイルが内蔵されている。

LM314V24 V2-ASSAULT GUNDAM
V2アサルトガンダム

SPEC

武装 ビーム・サークル×2
新翼1/6ガン×2
ビーム・サーベル×4
メガ・ビーム・ライフル
メガ・ビーム・サークル
近衛型射撃
1/4アサルト発生器×2
ウェスパー×2
リアクティブ・アーマー

ウェスパー

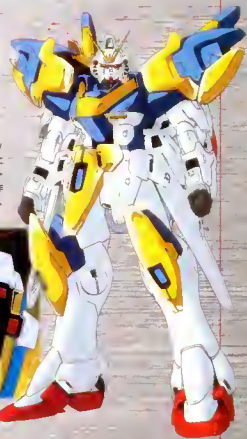
ビームの収束率と射出
速度の調節が可能な、ビー
ム兵隊 ビーム・サークル
を貫通する能力を持つ。

リアクティブ・アーマー

肩、膝、腰に装着する追加装甲。
暴弾と同時にプラスマ化し機体を
保護する。金色の樹脂・コー
ティングが施されている。



金色に塗装された追加装甲のサークル
と、1/4アサルト発生器の併用により、強大
な防衛能力を取ることが出来る。



イラスト：BEE CRAFT

V2ガンダムの基本装備

たとえ追加武装を装備していなくても、V2ガンダムは歴代のガンダムの中で、最上級の戦闘力を持つ機体たといえる。その強さを支えた、武装の数々を紹介しよう

光の翼

「光の翼」とは、ミノフスキー・ドライブを使用した際にV2ガンダムの機体から発生する、高エネルギー状態のミノフスキー粒子等を指す。推力に交換しきれないエネルギーが、機体外に排出されることで発生する。その形状が輝く翼のように見えるため、こう呼ばれる。最大発射時の大きさは1キロにも及ぶ。ビーム・サーベルやビーム・シールドと同様に、攻撃や防御に使用することが可能。V2ガンダムだけが持つ最適な推進システムが生み出す、唯一無二の武装である。



機体背部のV字型のノーズから展開する「光の翼」は、まさに光の翼を放つように、輝いた最前線を照らすほどの力を持つ。

2枚の翼を大きく広げることで、巨大なエネルギーを、シールドとしても使用可能。両方のMS部隊全体を防御することもできる。



強く発射した際は、機体全体を覆う防御盾としても機能し、連射のMSの機動を停止させることもできる。

ビーム・ライフル

グリップ部が外れビーム・カンにもなる仕様のものを使用。銃倉の下部にはグレネードや信号弾を射出できる、マルチプル・ランチャーが取り付けられている。



ビーム・シールド

ビームをシールド状に展開して使用する。この時代のMSの基本装備。攻撃からの防御は無論だが、大気圏突入時には空力加熱の軽減に利用することもできる。



ビーム・サーベル

両腕部にそれぞれ1本ずつ内蔵。Vガンダムのもよりも出力が向上している。ビーム刃を基部から直状に展開することも可能で、防衛面でも有用な装備である。



メガ・ビーム・ライフル

長大な砲身と高出力ビーム発生部を持つ長距離射撃兵器。V2ガンダムの機体向上に合わせて、本体も大型化しているが、携行時には砲身を縮めることができる。



未使用時は本体とグリップ部のコントロール部を分離して、搬行する。

メガ・ビーム・シールド

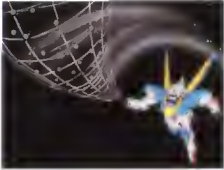
本体の上部と側面に配置されたバリア・ビットを射出することで、戦艦を包み込むほどのビーム・シールドを形成し、広範囲からの攻撃を防ぐことが可能な防衛兵器。



バリア・ビットがビームを射出し、巨大な角形の防御盾を展開。

探網型地雷

基本装備とは違いますが、最終決戦時、敵軍のカリスト級巡洋艦内部で手に入れたV2ガンダムが使用した宇宙地雷網に取り付けられた機雷が、標的に絡みついて爆発する。



進化の果てのMS像

歴代ガンダムのうち、史上最強の性能を持つV2ガンダム。その先にある、ガンダムの未来像とは？

宇宙世紀0079年に最初のガンダムが生み出されてから、V2ガンダムの登場までに、70年以上の時が過ぎた。

MSが戦場の主力兵器となり、その後、汎用性を持った人型機動兵器として進化の道を進む中で、時代を追い、歴史をも変える新しいテクノロジーを常に取り入れながら、ガンダムたちは生まれてき

た。ガンダムが夢んだ進化の道標を辿るようになってMSの技術は向上してきたと置いても、過言ではないだろう。

MSが誕生した時には夢物語でしかなかったさまざまな事項も、70年後の世界では、そのほとんどが実現していた。MS単体でさまざまな戦場に対応でき、長距離の移動や航行が可能となり、メンテ

ナンス性や汎用性は指数的に向上し、V2ガンダムの完成は、MSがマルチプル・汎用型の兵器と化したことを意味する。V2ガンダムの機能を受け継いだ、より安定して稼働する変換機が活躍する時、MSは次の世代へのステップアップをなし進めるだろう。

だが、V2ガンダムに搭載されたミノ

フスキー・ドライブ・システムはまだ完全に制御できておらず、未完成なものだ。ミノフスキー・ドライブが生み出す力をすべて、機体や武器の動力として、あるいは推進力として使えるようになったら——そこには、真の進化を遂げて變る高みへと届く立つ、ガンダムの姿を見ることができのかもしれない。

LM314V21 V2ガンダム

闘いの記録

激化するザンスカール帝国との戦いのさなかに、リガ・ミリティアの新たな勝利の象徴として戦場に舞い降りたMS、V2ガンダム。驚異的な力を持つこの機体の、激しい闘いの道程を追ってみよう。

BATTLE CHRONOLOGY

- 宇宙世紀
0139年 リガ・ミリティアの機動軍、民衆を中心に持ち上がる
- 0146年 マリア主義の蔓延、サイド2のアメリカ・コロニーにて政治的武装集団として政治結社が完成
- 0147年 ガチ党、アメリカ・コロニーの政権掌握に
- 0148年 リガ・ミリティア、実戦組織として再編成
- 0148年 サイド2、ザンスカール帝国の進軍を宣言
リガ・ミリティア、ヴォクトリー計画を発動
- 0152年10月 ザンスカール帝国の地球進攻先頭部隊、イエロー・ジャクットが地球のラグーンに侵入
- 0153年4月 リガ・ミリティア、V2ガンダムの開発に成功
- 6日 V2ガンダム、イエロー・ジャクットと交戦
パイロットはウッソ・エグウィン
以降、V2ガンダムを主軸とする
カミオン隊と行動を共にする
- 8日 V2ガンダム、ゴッソーラと交戦
敵艦のリガ・ミリティア、破壊
- 8月4日 リガ・ミリティア艦隊とザンスカール
帝国軍(ベス)のズガン艦隊が交戦
- 7日 リガ・ミリティア艦隊、
マクドニア・コロニーに侵襲
- 14日 リーンホースJr.、小型艦ホイト
アークとV2ガンダムを交戦
- 18日 ベス(1)のモトラッド艦隊、月面より発進
- 21日 モトラッド艦隊とリーンホースJr. 同戦、
共に大敗退
- 24日 モトラッド艦隊、メキシコ湾より上陸、
北米大陸を北上
- 26日 ザンスカール帝国と地球連邦の間で
休戦協定が締結
- 6月8日 ラグーン近海空戦、リーンホースJr.と
ホイトアーク、手置へ
- 12日 リガ・ミリティア艦隊が
ベス(1)艦隊を召喚
- 21日 エンジェル・ハイロウ、地球に降下
- 22日 女王マリア・ピア・アーモニア死亡
- 23日 ベス(1)艦隊の機動
ファンを、カガチ死亡
エンジェル・ハイロウ、大気圏上層で
分解し、後に大気圏内へ

BATTLE DOCUMENT 01

RECORD

TIME: U.C.0153.5.14
PLACE: マクドニア・コロニー近海
ENEMY: ベス(1)MS部隊
パイロット: ルベ・シノ

ザンスカール帝国のマクドニア・コロニーで囚われたウッソは、辛くもV2ガンダムのコア・ファイターで脱出する。だが、戦場の損傷により空気が漏れるの危機に見舞われる。ウッソをエサに、リーンホースJr.を誘い出そうとするカゲナ・ルースとルベ・シノ。そんなところでホイトアークに救われたウッソは、搭載されていた新しい機体V2ガンダムで出撃する。

V2ガンダムは、カゲナとルベ・シノの搭乗するゲドラフを迎え撃つ……。やがてV2ガンダムは、アインラッドの巨体もろともゲドラフを両断してのけ、初戦を勝利で飾るのだった。

新しいガンダム



パイロット、
ウッソの母が造った
新型MS

「先の戦」を告げたV2ガンダムは、思いが
かる敗戦を戦場に響かせた。ウッソ自
身が働くほどの圧倒的な戦力を見せつけた。



幼いウッソたちが、
乗組したV2ガンダムの
肩で眠る。ウッソは、自
分の母、ミューラがV2
の開発に関わっていた
ことを知らされる。

BATTLE DOCUMENT 02

RECORD

TIME: U.C.0153.6.19
PLACE: 月面-地球間宇宙戦場
ENEMY: ベス(1)MS部隊(モトラッド艦隊)
敵軍司令はクロノクル・アッシャー

オリファースの特技



MSとしては破格の力を持つV2ガンダムを撃ち、
巨大な戦艦へと果敢に立ち向かっていくが……

バイク戦艦降下阻止戦

地球に降り発進するザンスカール帝国のモトラッド艦隊を阻止すべく、シュラク隊が出撃する。だが圧倒的な戦力差の前に、為す術がない。やがて、指揮を
決つていたオリファースの乗るV2ガンダムがハンガーとパーツを分離。コア・フ
ァイターでモトラッド艦隊の旗艦であるアドラステアに、特攻を仕掛けるのだった。

V2ガンダムで出撃したオリファースは、シュラク隊を率いて奮闘。しかし、圧倒的
な戦力を持つモトラッド艦隊の侵襲を止められず、彼は最後の手段を選択する。



V2ガンダムのハン
ガーとパーツをウッソ
に託し、コア・ファイ
ターで特攻するオリ
ファース。だが、侵襲
阻止は失敗に
終わる……



BATTLE DOCUMENT 03

RECORD

TIME: U.C.0163.5.24

PLACE: 地球・大西洋

ENEMY: ベス・ガズ・ソリディア

パイロットはゴズ・バル

激闘！モトラッド艦隊

メキシコ湾沿岸に上陸したモトラッド艦隊は、巨大な車輪で地上の都市を踏みつづし、地球を浄化しようという「地球クリーン作戦」を開始。後を追って地上に降りたりガ・ミリティアとV2ガンダムは、進軍を止めようと奮闘する。

宇宙から地上へと戦局が変わっても、変わらぬ獅子奮迅の働きを見せるV2ガンダムは、ザンスカル帝国のMS群を撃破するが、艦隊の進軍を止めるには至らない。

そんな中、リガ・ミリティアの攻撃を抑えるべく、ザンスカルのMSソリディアがウツスの母、ミュラを人質にし、人間の盾とする。母を助けようと戦うウツス。しかし彼の目の前で母は、敵艦アドラスチアと激突に巻き込まれて、命を散らしてしまうのであった。



敵MSの手に勝たされた。母の姿を確認するウツス。V2ガンダムをもってしても、母を助けることができない……

非情の闘いの中で……

ザンスカル帝国との戦いは、地球の存亡をかけた戦い。ミューラを人質に取ることで、戦局はさらに複雑化する。

BATTLE DOCUMENT 04

RECORD

TIME: U.C.0163.6.12

PLACE: 地球・エンジェル・パイロット

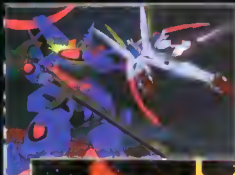
ENEMY: ベス・ガズ・ソリディア

敵艦アドラスチア・ビビエーニ

天使の胎動——宇宙の戦場へ

ザンスカル帝国の新たな計画を知り、再び宇宙へと上がったウツスたち。そこには、地球連邦軍艦隊の協力を得て戦力を整えたリガ・ミリティアと、それを率いるウツスの父、ハンゲルグの姿があった。父の後ろ盾を得て、ウツスのV2

ガンダムはさらに奮起する。いかにもウツスらしい、機転の利いた戦法や、メガ・ビーム・シールドを使用したV2ガンダムの闘いは、ザンスカル帝国の最終兵器である、エンジェル・ハイロウ攻略への突破口を切り開くのだった。



地球連邦軍艦隊と連携するウツス。父の後ろ盾を得て、ウツスのV2ガンダムはさらに奮起する。



リガ・ミリティアを率いる父との再会

父との再会がウツスの心に大きな影響を与え、さらなる活動を開始する。そして、V2ガンダムの持つ力をフルに使いこなしながら、さらには柔軟な発想に基づく戦術を行使し、通化する闘いを切り抜けていく。



戦場にウツスを導いたリガ・ミリティア。V2ガンダムの父の再会、戦局はさらに複雑化する。



リガ・ミリティアと地球連邦軍の艦隊が戦い、艦隊が壊滅する。最終決戦の神が訪れるようになっているのだ。

エンジェル・ハイロウの決戦

光の翼が奇跡を生む

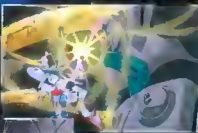
人々から戦意を奪い、結核を流行させる最終兵器、エンジェル・ハイロウ。これを倒す、最後の戦いが始まった。

V2ガンダムは、新たに開発されたアサルトパーツやバスターパーツを装着し、戦場を駆け巡る。しかしその前には、ウツを撃墜せんと決意に迫る。そのファラ・グリフのガンガオゾ、クルルのリグ・コンティオ、そしてカテナ・ルースのゴトラタンが立ち現れる。だが、シャクティ・カリンを救わんとする思いと仲間たちの死が、ウツとV2ガンダムに力を与える。

エンジェル・ハイロウ中隊部でカテナと対峙した時、V2ガンダムの「光の翼」が、秘めたる力を発揮する……。



立ち上がるファラのガンガオゾを、一瞬の隙を突いて撃破する。



カテナと対峙するV2ガンダムに、戦死した仲間たちが集い、その意思はV2ガンダムに力を与える。



V2ガンダムの力が解放され、赤い「光の翼」がエンジェル・ハイロウを破壊する。



戦死した仲間が、ウツの心の中に集い、その意思はV2ガンダムに力を与える。



破壊されたエンジェル・ハイロウから、光に包まれて静かに落下するシャクティ。V2ガンダムが彼女を救った。すべての戦いは終わった。

PILOT ウツ・エヴィン

無敵なる力に闘い抜いた、心優しい天才少年パイロット

ザンスカール戦争において、リガ・ミリティアの勝利の象徴であるVガンダム。そして史上最高の性能を持つガンダムであるV2ガンダムの操縦者として活躍したのが、若返り13歳の少年ウツ・エヴィンだった。

彼が乗座したパイロットとしての資質をもっていたのは事実だが、それが戦前において顕在化したのには理由があった。ウツの父は、リガ・ミリティアの指導者であるジン・ジャハナムの一人であるハンブルグ・エヴィン。母は、MS開発技術者であるミケラ・ミケル。二人は、世界が新たな戦いに包まれることを予見し、ウツに幼い頃から生き残るための英才教育を施した。また、ウツ自身も父の持つ強いコンピュータ資質から、戦いに備えるための多くの知識を得ていた。



PROFILE

年齢 13歳
身長 150cm
体重 45kg
血液型 B型
髪の色 茶色
目の色 青
好きなもの 飛行機
得意な科目 数学、理科
苦手な科目 国語、英語
好きな食べ物 カレー、ラーメン
得意な武器 拳銃、短剣
得意な技 空中宙返り、空中宙返り
得意な戦術 空中宙返り、空中宙返り

その結果、ウツは13歳ながらも戦場で活躍することなく行動し、仲間を救うことができる少年となった。そして、戦いの中でウツはニュータイプとしての資質に目覚め、さらなる戦果を挙げることになった。

しかし、戦争という残酷な現実、ウツの前で多くの仲間や家族の命を奪っていくことになる。

歴代のガンダムパイロットの中でも指折り、高いパイロットとしての資質を持つ、いわば天才的ニュータイプとも言えるウツだが、戦いの中で受けた心の傷は、他のパイロット以上に大きかったかも知れない。



THE RIVAL

V2ガンダムを窮地に追いやったザンスカール帝国後期の機体たち

ZMT-S34S リグ・コンティオ

SPEC

全高 16.3m
全幅 10.7m
全重量 21.4t
ジェネレーター出力 6,500kW
スラスター推力 10,000kg
装甲材質 バイオチタン合金
ネオセラムシールド付
武装 70mmリアブール・ビーム・ランチャー
有線誘導式ミサイル・クロー
(ビーム砲台付)
射撃距離 100m
ビーム・サークルのX2
ビーム・サークルのX2
ビーム・サークルのX2



クルル・リグ・コンティオが運用した対MS戦闘用機体M.S.。対MS戦を主眼に置いた武器強化が図られており、大気圏内でも高い機動性と攻撃能力を発揮した。

ZMT-S33S ゴトラタン

SPEC

全高 15.8m
全幅 11.1m
全重量 24.4t
ジェネレーター出力 6,120kW
スラスター推力 102,350kg
装甲材質 バイオチタン合金
ネオセラムシールド付
武装 70mmリアブール・ビーム・ランチャー
有線誘導式ミサイル・クロー
(ビーム砲台付)
射撃距離 100m
ビーム・サークルのX2
ビーム・サークルのX2
ビーム・サークルのX2



カテナが乗座した機体。大型キャノン砲を備える重砲撃専用機M.S.だが、ビーム・トンファアを装備し自兵戦でも高い性能を発揮し、V2ガンダムを苦しめた。

GUNDAM SIDESTREAM

第3回 SDガンダム・テレビアニメ編

『SDガンダム』シリーズが生み出した、オリジナルのガンダムを巡るこのコーナー。今回は、テレビアニメ作品に登場したSDガンダムたちを紹介しよう。

SDガンダムフォース

2004年1月7日から12月29日まで
テレビ東京系列で放送

異次元からの侵略者・ダークアクシスと闘うガンダムフォースの勇者たち

未来都市ネオトピアの自衛組織である Super Dimensional Guard(略称S.D.G.)に所属する特殊部隊「ガンダムフォース」隊長のキャプテンガンダムを中心に、ネオトピア防衛の最前線に立つ、異次元からやってきた、ラクロア王国の翼の騎士ゼロや天宮の武者道駄無極時丸らと共に、全宇宙の敵地という、ダークアクシスの首領ジェネラルシオングの野望を阻止せんと、戦い結していく。SDコマンド戦記、SD戦国伝、SDガンダム外伝などのエッセンスを集約し、3DCGアニメの技術を取り入れた本作は、新たなSDガンダムファンを開拓した。

翼の騎士ゼロ

ソラシオラマ世界、ラクロア王国の騎士ガンダム精霊の樹から生まれた生命体。ガンダムに絶頂を授け、ダークアクシスの侵略で石化されたラクロア王国を救い復興させるために、リリシマーナ城の次元移動魔法によってネオトピアに送り込まれた。誇り高く、常に正義で優格な立ち振る舞いをしようとしている。一人だけラクロアの偉勳から選れたことに、心を磨いている。

鎧闘の騎士 セロカスダム

ラクロアの大地を守護する精霊。フェザードラゴンと融合し、パワーアップした姿。2振りの大剣(ライノバスター)を必殺技の超魔法、インフィニティ・ウィングにより、光の刃を放つ。鎧の騎士アスサイズからラクロアを解放し、仲間たちの力をつけた。



ヘビーウェポン キャプテンガンダム

キャプテンガンダムがパワーアップした姿。近接もヘビーマシンガン、ヘビークラウドへとバージョンアップ。フォルダー・ミサイル・ランチャーなどを装備した。ガンビークルモードというM.A.形態への変形が可能。

武者道駄無極時丸

天宮の武者。武皇丸に仕える若武者。敵いの中に次元転送装置の暴走により、ネオトピアに飛ばされてきた。熱血漢で情に厚く、無情な反面、礼儀を重んじる。キャプテンガンダムの熱意に触れて感銘を受け、S.D.G.へ協力することを誓う。

爆丸

爆丸が爆丸の力を發揮し、パワーアップ。出世するとともに名前が変わった。天宮に帰還するも、次元移動時のいきさつから敵対過ちを繰り返していたが、爆丸となり満心を示したことで、主君の信頼を取り戻した。

キャプテンガンダム

ガンダリウム合金使用の戦闘ロボット。「モビルスーツ」の一体。人間と心をシンクロさせパワーアップできる特殊機構「ソウルドライブ」を搭載。さらに、ハッキングされたロボット市民の精神にアクセスし、正常に戻すことができる。キャプテンシステムを装備するなど、S.D.G.でも唯一無二の存在。少年シチュエーションとの交流により、次第に感情を持つようになる。

ハイパーキャプテン ガンダムオプションZ

戦闘で致命的な損傷を負ったキャプテンガンダムが修理を受け、生まれ変わった姿。バックパックを換装することで、さまざまな装備が使える。巨大ブラスター、カトリックガンオプションZにより、最大限にパワーアップする。



SDガンダム三国伝 Brave Battle Warriors

2010年4月3日より毎週土曜日 10:15 ~ 10:30、
テレビ東京系および有線放送中

悲劇の新展開、聖なる力を宿した俠たちが大活躍!

「廣砂の世界を荒らした黄巾賊の反乱。その後、皇帝を暗殺し権力を牛耳った董卓が専横により、世は乱れていた。そんな世の中を止めようとした立ち上がった英雄たち、劉備ガンダム、曹操ガンダム、孫権ガンダム。彼らの闘いはいよいよ激しくなっていく。そんななか、超古代の神器、**「真龍」**の発動に呼応して、英雄たちも新たな翼を手に入れることとなった。その聖なる力を使い、彼らは自分たちの信じる未来のために、さらなる闘いの場に身を投じていく。SDガンダム のテレビアニメ最新作である本作に注目だ

劉備ガンダムの仲間たち

劉備ガンダム、張飛ガンダム、関羽ガンダムが義兄弟の誓いを立て義勇軍を結成した。劉備ガンダムたちの出身地「幽州」にちなみ、幽州義勇軍とも呼ばれる。劉備の兄弟子で幽州を治める將軍、公孫瓚イーザーエイト、勇猛な武将・趙雲ガンダムとともに、民のために戦い続けている



龍装劉備ガンダム

暴走・董卓は倒れたが、三璃紗ではまだ多くの民が苦しんでいるということを知った劉備は、関羽、張飛とともに各地におもむく

孔明・ガスイ

三璃紗各地を流浪する謎の伊。三璃紗を脅かす闇の正体を密かに探りつつ、劉備たちの戦いを陰から見守っている



鬼牙装関羽ガンダム

冷静沈着にして大器不磨。礼節と正義を兼ね備えた彼。何も言わなくても劉備のことを信頼し、その絆は揺るがない



雷装張飛ガンダム

おっちょこちょいでもケンカっ早いのが、弱い者を絶対見捨てない熱い心を持つ彼。数々の戦いを経て、劉備との絆はさらに深くなっていく



孫権ガンダムの仲間たち

三璃紗南部の景沙地方を治める孫一族に率いられる勢力。もともとは無主である孫乾セフィランサスが組織したもので、孫堅軍とも呼ばれていた。孫堅亡き後は、長子である孫策ガイサリスが跡を継ぎ、新たな国を作るため、江東の地へと進出する。



猛虎装孫権ガンダム

暴走・董卓を倒した後、一戦と一戦に長足の進歩を遂げ、江東に進出した。亡き父の言葉を胸に、自分のあるべき道を模索している。孫権にとっての真の戦場とは、

曹操ガンダムの仲間たち

軍師将ギラス、重臣徐ダラス、市井能ササビーなど、多くの優秀な武将や軍師を開く者。曹操を慕い、忠誠を誓う者も多い。董卓の太子・董卓を倒した後、三璃紗統一という大きな理想のため、都・許昌を中心に、勢力を拡大してゆく。



紅蓮装曹操ガンダム

暴走・董卓を倒した後、許昌に都を作り、勢力を拡大した三璃紗統一という理想の実現のため、覇道を突き進む。

サッキーのサイコ・ジオングに対抗すべく、真打ち登場！

ガンダム 狂四郎

メカデザイン&イラスト
やまと虹一
原案 クラフト団

作品ナンバー3 パーフェクト・アーマー・ガンダム



サッキー 山田

「サイコ・ジオング上巻だ！
おれのフクロ魂に火がついたぜ。
見せてやる、最強のカンダムを！」
フルアーマーを超えた
パーフェクト・アーマー・
ガンダム、ここに登場！

サイコ・
ジオング

パーフェクト・ アーマー・ガンダム

作 京田四郎 フルスクラッチ

かつて狂四郎がつくりあげたフルアーマー・ガンダムに新たな装甲を追加した。究極のカンダム 金色の装甲は、連機や重機の外装を参考にしたもの。また、2連装ビーム・ライフルを両腕に、右肩の360mm ロケット砲は2連装へと、大幅に武装も強化されている



すてきよ
四郎くん！

やまと虹一

みどり！これが
究極のカンダムだ！

京田四郎 (39)

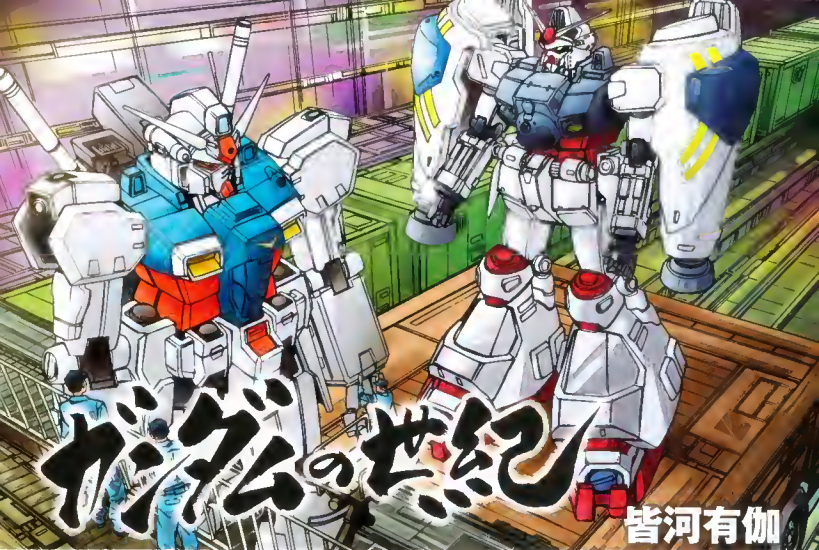


イラスト 沖一

第3回 ガンダムという名の利権

抹消された開発計画

あたしのガンダムが!

艦橋のモニターに映る2機のMSをまわりのあたりにして ニーナ・ハーバートは絶句した¹⁰⁾
 ビーム・サーベルを光らせ、つばぜり合いをする2機は、どちらも彼女がシステムソフトを担当したものであった

アナハイム・エレクトロニクス(以下AE)計で開発され、地球連邦軍でのトライアルを控えた機体である 試作1号機 試作2号機 いずれも、兄弟というべきものであった

基地を脱出しようとする2号機を、1号機のパイロットは食い止めるようとしている。だが、技量があまりに違いすぎた。いったん引いて、再び打ちつづられた2号機の攻撃を受け止めはしたものの、1号機はそのまま見えることができず、はしき視はされるように、後退させた

20メートル近い小の足で、舗装された地面がチェーンハスのように割れる。あらうして機体を踏ん張らせた1号機のパイロットが顔を上げたとき、

正面のモニターに2号機姿はなかった

後ろだ、気づいたときには遅い

1号機のパックバックへ2号機の顔が見え、1号機は1号機はつんのめり、首を立てて倒れた

未納、2号機のコックピットでアナヘル・ガトは叫び捨てた。かつてゾロシンの悪夢と恐れられたエース・ハイロット、シオン公国軍の残党であるニナの前で繰り上げられる光景は、あまりにも異様なものであった

1号機、2号機、どちらにも人を思わせる顔があった。一年戦争での戦果によって連邦軍MSの象徴となったガンダムである

その1号機が、こともあろうに、公明正堂でテラス・フリードによって奪取されてしまった。たまたま現れた敵の攻撃で草地の片々で火の下がかりにいた射通の姿の照り差しで2号機は赤黒く染まり、その顔は急死の顔に引きつった

これらの機体を生み出したのが、U.C.0083年10月より地球連邦軍(再建)計画の一環として始まったガンダム開発計画であった
 計画は連邦軍、旧公明系、2つの技術者を融合させ

ることを目的としていたが、複数の開発を同時進行させたこともあり、機体ごとに技術者の偏成が異なっていた。1号機、2号機は連邦系、3号機、4号機は旧公明系の技術者が主導的な役割を果たしたという。無論、開発にあたって両者の技術的フィードバックは行なわれていたが、完成した機体はそれぞれが技術者たちの個性や色合いを落としたものとなった

機体にはそれぞれ、スタッフによって愛称がつけられていた。汎用MSとして開発されたRX-78GP01ガンダム(試作1号機)は、セフィランサス、核弾頭を搭載し、最強の攻撃力をするMSとして開発されたRX-78GP02Aガンダム(試作2号機)は、サイサリス、宇宙戦艦専用の拠点防衛用のMAとして開発されたRX-78GP03ガンダム(試作3号機)は、デントロビウム、(MA部とも)、ラベキ武器部には、オーキス、中心部に搭載されたMS部RX-78GP03Sには、ステイメンの名称が与えられた)、強襲用MSとして開発された4号機は、カーハル、といったふうである

ガンダム開発計画でロールアウトした機体はGUNDAM PROJECTの略であるGPを型式番号として持ち、Gシリーズと呼ばれる。ただし、例

外は4号機であり、C.Pシリーズより除外されている。この機体は正式にはC.Pシリーズとしてリリースされず、完成した機体が当時のA.E社のアサヒ新聞常務の判断によって、旧公明党現役デラーズ・フリートのシーマ・ガラハド中佐に引き渡されている（このとき、意図的な偽装を働され、機体デザインが「ガンダム」とは異なり異なるものとなった。型式番号としてはAGX-04が与えられ、ガーベラ・レトラの名で呼ばれている）。

これらの機体群は計画始動よりおよそ2年を経て、0083年秋に完成した。ガンダム開発計画はこれらの機体群の出現、新たな機体へのフィードバックを以て役目を終えるはずであった。しかし、地上試験のために「アルビオン」に搭載され、地球へ降下したRX-78GP01、RX-78GP02Aのうち、後者が、搭載された戦術核弾頭とともにデラーズ・フリートによって強奪されたことから計画は実質的に頓挫することとなった。しかも、強奪されたRX-78GP02Aが駆艇艦を襲撃し、戦術核弾頭MK-82を使用、参加艦艇に大きな被害を与えたことを直接の理由として、計画担当者ジョン・コウウェン中尉は更迭された（これにより、ガンダム開発計画はジーン・コニー人持の統轄となったこととなった。中尉の更迭と同時期、A.E社のドクトルアンブローズ・ド・トライアルを開始していたRX-78GP03は、コニー人将の命令によってテストを中止され、計画は完全にキャンセルされた）。

ガンダム開発計画は駆艇艦襲撃事件をはじめとするデラーズ紛争で人々に開陳していった。このため、紛争の事後処理において計画の存在自体が抹消されることとなった。0084年3月10日、ガンダム開発計画は公式記録から削除され、開発された機体群も登録を抹消されている^[02]。

ガンダム開発計画に割り当てられていた予算は、ティターンズの設立準備金、北米へのコロニー落着事故への対応に費する費用として計上された（落着者は、移送中のコロニーをデラーズ・フリートが強奪、軌道を変更したことによるものだったが、長く事実とは相反していた）。連邦軍はガンダム開発計画の隠蔽を組織的に行い、ジャクソン・ハイマンが連邦政府

の財務部門に払いこみコネクションを有していたこともあって、資金流にティターンズの存在を活用した手帳の未消化分の一部が、ティターンズの設立に用いられたといわれる。

連邦系技術の純血主義

開発によって得られた技術も封印が決定され、以後のMS開発は数年の後退を余儀なくされた。封印された技術は連邦軍が管理するところとされ、開発元のA.E社での使用さえも禁止された。仮にA.E社が製品に用いた場合、莫大な違約金を支払う旨の契約者に結ばれたといわれる。この契約料はMSだけでなく、技術転用による他製品の開発にまで及んだ。

ガンダム開発計画におけるA.E社内の開発経緯は連邦軍からの受注金額を大きく上回っていた。赤字分をA.E社は将来的なMS市場の独占と、グループ企業間の技術転用による新製品開発で補填しようと考えていた。しかし、開発計画の隠蔽はこうした思惑を水泡に帰させる結果となった。

連邦軍はA.E社からデラーズ・フリートへ強奪が偏見されていたことを重視した（RX-78GP02Aの機体はA.E社社員がデラーズ・フリートへ内通した結果だったという）。以後、連邦軍は機密性の高い兵器については民間企業との共同開発は取りやめ、軍内部での開発を選ぶ。

軍内において勢力を拡大しつつあったティターンズにおいてもこうした態度は変わりなかった。ティターンズは地球至上主義思想を掲げており、旧公明党の技術者を連邦軍の主力兵器の開発から外すのは、当然の選択だと考えた。

また、ティターンズはMSや関連兵器の独自開発計画を推進していた。そのひとつがT.Pシリーズと呼ばれるもので、その一環として0084年末にはコンバインド（併用ロモン）兵器^[03]において数機の「ガンダム」タイプMSが完成していた。

RX-121「ヘイズル」の名で呼ばれるこの機体は純然たる「ガンダム」ではなく、ティターンズの主力機、RGM-79Gジム・ウルクをベースとし、頭部を「ガンダム」へと交換したものだ^[04]。

連邦軍内部でガンダムが神話化されていたことは

繰り返し述べた通りだが、ティターンズではこの機体を以て、「ガンダム」の存在が戦場でどのような心理的影響を与えるかを調査しようとした。調査対象は連邦軍のみならず、旧公明党現役デラーズまで及んだ。そのため、機体はティターンズ・テストチーム（TITANS TEST TEAM）、通称T3部隊で実際に旧公明党現役の士団に用いられ、数々の実験データを開発陣へもたらしている。

開発中の機体に「ガンダム」風の「顔」を付けたら、「ガンダム」の名を与えることは、計画関係者にとって手塚特権獲得の争奪戦の一環となっていたといわれる。連邦軍の」側面にある人間たちにとって「ガンダム」はこの時期、もはや一側面の信仰に等しい存在だった。

T.R.U.R.とほぼ同時期に進められたムラサメ研究所の強化人間用M.Aの開発計画では、こうした風潮を顕著に示している。この研究所で完成したMRX-009 サイコ・ガンダムは全高40 cmにも及ぶAM.Aだった。頭部こそ「ガンダム」の「顔」を持つが、冠せられた「ガンダム」の名が実を言うものでないことは誰の目にも明らかとなっていた。

換言するなら、地球連邦軍において「ガンダム」を造るということは、この時期、すでに利権であった。「ガンダム」開発に至りつづくる人間たちにとっては、まさに新しい公共事業だったのである^[04]。

もっとも、そうした流れの中にあっても、地球圏最大の人企業であるA.E社を連邦軍のMS開発から完全に締め出すことなどできようはずでもなかった。事実、A.E社は植産育の委託生産を従来通り継続していた。新規MSの開発においても、完全な排除ではなかった。連邦軍が主導し、A.E社はその意向を全面的に容れるといった形でならば参画は認められたのだ。

A.E社はデラーズ紛争後、自社設計の機体としては初の産出機、RMS-106「ハイザル」を完成したが、これも名ばかりにすぎなかった。開発陣こそ、旧公明党系技術者が投入されていたものの、機体開発を主導したのは連邦軍である。

ガンダム開発計画で得られた技術的成果を使えなかったことに加え、RMS-106では地球連邦、ジオン公明、ふたつの系統の技術が引込半端な形で組み

*01 A.E社社員 ニナ・パールブロンは、MS機動ユニットのアサヒ新聞採用プログラムの基本アーキテクチャーを構築したことで知られる。このアーキテクチャーはRGM-79Gジムの機体にRX-78に搭載するマルチタスク処理を實現できる高い操作性を与えた。80年代中期までのMSの機体広場において必須とまでいわれることとなった。この開発実績を評価して、彼女はガンダム開発計画のスタッフとなった。

*02 ガンダム開発計画については徹底した機密保持と情報規制が行われたが、最終では連邦軍が一年前程度、新たに「ガンダム」を開発していたとの噂を聞き知ることとなった。ティターンズが成立した後、「ガンダム」の噂を持つ機体や同様の開発した背景には、導かれる開発計画の存在を隠蔽する意図が窺いあがっている。特にRX-178ガンダムMK-IIを開発、保有し、これを主力機として主張しようとしたのは、この機体をガンダム開発計画との隠蔽させるため

であったとも見られている。*03 RX-121はT.R.U.R.の1番目の機体であったことからガンダムTR-1とも呼ばれる。もっとも、この機体は軍に承認を許さなかっただけでなく、可動式ブースター・ボルトを格納した強化型のバクハバク 脚部の強化ハイパーといったものが導入され、ブースター・ユニットと呼ばれる新装備を試験的に用いられた。これらによって機体の存在形態は「ガンダム」の顔を保持しつつ相応しいものとなったといわれる。

RX-121はT3部隊での運用開始に大破、改修されたRX-121「ヘイズル」改とされた。RX-121-1は機体部をRGM-79Gのハバクと手帳「ハイパー」で機体とを分離し、それによって得られた実用性を活かすため、機体各部の強化ハイパーと内部構造他ハイパーとのバランスの調整をされている。これによりMSとしての完成度が高まり、推進力も1割ほど向上した。コクピットもこの時期、また一時的にはなかった全天候型モニターとユニコー

の導入がなされた。こうした機体改修は、機体は機密改修機とされたことという。

またRX-121-1のオプションとなったシールド・ブースターは大威力を持つノード・無敵のブースターであり、後に機体を変更可変M.Aや可動M.Aの発展に大きな影響を与えている。

これと別に、ドライブ・ブースター・ユニットを装着した仕様で2号機がRX-121-2の型式番号を与えられた。さらにこの機体は仕様をRX-121-1と統一され、各種可動式ハイパーのテスト結果を反映、頭部に高性能光学センサー・ユニット、胸部に可動式ブースター・ユニットを追加、バクハバク 可動式ブースター・ボルトをシールド・ブースターと2基装着可能なものと変更されている。この仕様はRX-121-2A/ハイザル・ハイザルと呼称され、ヘイズルの完成版とまでいわれた。





装甲 兵器を分離し、で
フル・フレームはオプション装備のため
内装用「ダ・フェイス」としての性格を
もっていた。従来の機体は兵器を機
体、兵器を別システムの「セット」や高
調整を必要とされていたが、フル
フレームではこうした煩雑な作業を
することが可能だった。

この利点を、量産し、エネーブでは
RX-178を強化する。推進装置の開発者
A.E社が依頼。フルフレーム「ガンダム
Mk II」とスーパーハカ ダムの2機を請け
という。

フルフレーム「ガンダム Mk II」は
・SWS計画に倣い、FA-178の型番で
計画された。RX-178の装甲計算がシ
ン合せられ、7層構造であったことか
ら、これへ「ダ・フェイス」の追加装
甲を施し、装甲強化を行おうというも
のだった。さらにこの追加装甲にFA-78
同様、固定兵器を設け、火力の強化をも
構想していた。

これに対し、スーパーガンダムは宇宙
用戦闘機「ダ・フェイス」をRX-178と
トキをさせるものだった。これによ
りRX-178は防衛力、近接戦闘の両面
で強化されるのだ。

結果として採用されたのはスーパ
ーガンダムであったが、異なる開発者の機体
であってもこうした追加装甲を容易に解
除できる点で、RX-178は柔軟性のある
機体だった。

合わされた。たとえば、シェネレーターはRX-78以
来、連邦軍MSに搭載されていたタキムⅡの製品
が用いられている。当初、開発陣はA.E社製品の使
用を想定していたが、連邦軍側がこれを拒んだとい
う。結果としてRMS-106は複数のビーム兵器を同
時発動させると動作が不安定になる、火器運用上
に問題を持つ機体となってしまった。コストパフォーマンスに
機体でいたものの、RMS-106の総合性能はき
わめて凡庸だった。

自社開発とは名ばかりの機体を量産する状況が軽
くならず、A.E社が技術的に弱体化していくのを目に
見えていた。連邦軍のMS開発に対して主導的立場
が与えられないならば、先々、A.E社は単なるト
クけ生産工場と化していくだろう。

しかも、ティターンズの台頭もあって、地球連邦
政府の宇宙への投資は減少しつつあった。A.E社の
利益の多くは宇宙での経済活動に依るものであり、
連邦政府の宇宙投資の減少は、収収減益へと繋
がるものだった。

こうしたなか、当時A.E社社長、メラニー・ヒュー
カーバインは自社の先行きに大きな不安を抱いてい
たという。

0080年、民間よりA.E社が密かに反地球連邦政
府運動組織エウゴを支援するようになったのは、
会長自身の意思であった。

第2世代MSの足音

一年戦争時に運用されたMSは一般に、第1世代

と区別される。0087年に勃発したMSと戦役
以後、トクとなっていった機体は第2世代と呼ばれ
る。

両者を隔てたのは、4つの要素だった。

1つめは、コクピットへの全大開閉モニターとリ
ニアシーの導入。それらは一年戦争時すでにRX
78NT1アレックスに採用されていたが、本格的に利
用されるようになるのは0084年以降である。

2つめは、2機体以上のビーム兵器を同時に発動
できること。これはシェネレーター出力の向上と、エ
ネルギーサンプライを中心とした機構の安定で実現
された（RMS-106はこの点に失敗した）。

3つめは、新素材ガンダリウムyの使用
ガンダリウムとは、RX-78で採用されたルナ・チ
タニウム合金のことである。戦後、ガンダム の

戦果を受けて、この名称へと変えられたというから、
連邦軍内にあるガンダムへの評価がある種の
信仰であったのは間違いない。ガンダリウムyは
ルナ・チタニウム合金をガンタリウムaとして、改良
を重ねた3世代目の素材だった。この新素材は小
惑星基地アグリスで開発された。連邦軍によって開発され、
秘密裏に地球圏へ輸送したシャア・アズナブル
の目でA.E社へもたらされた。シャアはこの情報と引き
替えに、A.E社の反地球連邦運動への協力を取り
付けたという。A.E社では密かにこの新素材を用い
て新規MSの開発を行い、アグリス戦役発動直前に
MSA-009（A.E社内型番）連邦軍内の別型番
はRMS-099）リック・ディアスを完成させている。
4つめは、ムーブバブル・フレームの採用。

これは、乱暴な表現をするならば、MSに人体同
様の「性格」を与えてしまおうという発想だった
しかも、単なる骨組みだけでなく、フィールド・モーター
を内装し、自律発動するのだ。

ムーブバブル・フレームを採用すれば、MSは機体
の稼働に必要な構造と、装甲や武装を完全に分離す
ることができた。これにより、従来以上に人体に近い
動きが再現された。

また、マグネット・コーティング処理を施された
フィールド・モーターは稼働時、センシやレール部
から浮き上がった状態になる。この構造ゆえに関節
部のフィールド・モーターはショック・アブソーバー
としても機能し、ムーブバブル・フレームは従来の構
造以上の耐衝撃性を有した。

加えて、フィールド・モーターの稼働部分は隠れ
合わないため、摩擦抵抗が少なくばかりか、接合部
分の摩耗もなかった。このことが高い整備性をも支
援することとなった。

前出のリック・ディアスは第2世代MSに区別さ
れるものの、ムーブバブル・フレームの採用はなかつた
かから、この構造に似通った、ブロックビルドアップ
と呼ばれる構造を持っていた。

ムーブバブル・フレームという技術はA.E社内には
なかった。この技術は1力MS開発の最前線からA
E社を放逐した。ティターンズの技術者たちによ
って生み出されたものだった。

ムーブバブル・フレームという技術は、0087年、
クリス戦役勃発直前に完成したRX-178 ガンダム
Mk IIにおいて確立された。

04 「戦中戦後のオースタリヤ研究」で開発された ORX 013 カンダム・ホク V 型鋼の導出で「カンダム」の名を与えられた機種のひとつである「G V」とも呼ばれた。戦時人権の不安定さと隣国とのいざしめを解するべく開発されたニュートン以外では世界で可能な唯一のコミュニケーションを掌握した。試作機が完成した。う、うちへ研究所所員と日本とオーストリアと通達する AMX-014 トロイメアの原型となつたという本機は、酷くこぞえたものの、形状は「カンダム」とはいい、難く、名称は新型システムを両通するたもの、の、すぎないか。

05 カンダウリとは従来のカンダリム系合金以上に高い強度を持ちながら、最も貴重で、極めて少量の資源による、機動性、運動性の低下を最も、減らすことでできた。

ただし、ガンタリウムYの生産性は決してよいものではなく、第2世代機で用いられることも多かった。A社がエーゴウのために開発、生産したMSA-003 ネモはそうした機体のひとつである。'06 ティターンズによるRX 78の正統な継承という形で、ガンダム、開発と並行し、R投入の機体はグリスの戦術開発後も開発、生産投入の順

つれた ちなみ、可変品A、ORX-005 ギャ
ランをベースとした5番目の機体、TR-5 ファ
イバーのコア部分、ブライルは頭部マルチ
プレート・アンテナの形状から ファイバー・コ
アムの愛称でT3部隊員から呼ばれたという。

T-RX12を発売されたのは、日本ではまだパソコンが普及する前。当時のユーザーは、主に6番目のTR-6に注力した。理由は、この機種の最大の特徴として開発されており、RK124のワークフローと中核となる一連のハードウェア構成でもういへるべきとなっていた。ハードウェアの名前はカガメダタイプの頭部も存在し、カガメダのTR-6のワークフローと、と呼ばれる形状などを使用して作られた。

また、TR-6の開発で得られた技術を RK121/Fォートハブ12Cにも活用して存在していた。開発された RK121は RK123のハイブリッド版の名称で知られた。RK121-3Cは AGM 790 のハードウェアと組み合わされ、AGM 790 の最高信頼性規格に運用される上半身を使用する仕様であったとい

*07 AE社内ではとりわけフンタ技師長がRX-178の設計思想に興味をもったといわれている。フンタはRX-178の設計における未整理部分を解消、大幅な改修を図った。RX-178のムーバ

フル、**LA**は前編であったが、今回にこれでは物足りないように思えた。フジはこれを機に変化することで視聴者層を強化し、関東圏を中心にと広げたいだけでなく全国的な影響力のある番組を実現しようとしたのだ。同時に、視聴者の行動を刺激するストーリー・ノウハウにも変化を加えるという設計であった。

この機会は総社専有であるフジの欄文字を利し、A社内ではMUSEのブランドMK-06の名称とMSF-007の型式番号を与えられた。さらにフジにはその機体の最終開発者としてFA-007G型パイロット兼「ガンダム」の名を冠す新軍、火力の増強のため至るスラスターと推進力の追加装備によって作戦行動時間を延長し、中距離攻撃での運用を企図した

もっとも、グリプス戦役の連
 属に伴い、開発の中心は第3
 世代MSへ移行していた。この
 設計の下、実機が製作される
 ことはなかったという。

MSF-007
ガンダム Mk-III



FA-007GⅢ
フルアーマー・
ガンダム Mk.Ⅲ

画期的なH型機

RX 178はティターンズの「ガンダム」として開発された機体である

年戦争以来、神話化された「カンダム」は連邦MSの象徴といってもよい位置付けにあった。これを保持し、存在を喧伝することか、事実上、連邦軍を掌握しつつあるティターンズにとってききな意味を持っていたことは想像に難くない。

しかも、この機体はティターンズ理念、地球平和主義に基づいて開発される必要があった

RX 178 はアースノイドの優位性を象徴する機体ということもあり、採用されたのは純正卸製の技術だった。ガンダム開発計画のように日仏公明系の技術者を関与させることも、ティターンズの理念からいって、到底認められるものではなかった。日仏公明系のみならず、スハースノイドの技術者さえも排除されたという

開発は主に、一年戦争以来、RGM-79シム系の機体の改良と量産を行っていた、ジャブローに属する技術者たちが率いた ティターンズは彼らを設立直後から部署ごと自らの開発計画へと組み込んでいた。この RX 178 の開発は O085 年より開始されたが、これ以前に TR シリーズにおけるガンダムヘッドのテストもあり、ガンダム 開発の意図は設立直後よりあったとみられる。⁴⁰⁶

ティターンズによる機密保持の厳格さは通常の車の開発計画とは一線を画すものでさえあった。ティターンズは車へ部品を納入していた企業と別途に契約を結び、独自の資料調査を行っていた。A社傘下の提携企業においても例外ではなく、ティターンズはA社ではなく、関連企業に独自契約を強要し、通常以上の守秘義務規定でグループ中核のA社以上にこれらを縛っていた。

開発拠点とされたのは、ディターズが同年、2
基の連閉型コロニーを結合させることでサイド7に

完成した軍事拠点、グリブスである。型式番号のRX-178は「RX(連邦軍試作機)」の「開発コード17(開発拠点のグリブスを示す番号)」で完成した。8番目の機体を意味する。

開発に参画した企業の支社、営業所を、ティーターズはグリブスへ譲渡したが、このとき、各企業への資金提供を申し出ることも多かったという。また、高い機動性を実現するべく、各部パーニア、スラスタの開発企業となったタカム重工には破格の優遇措置かととられていた。タカム重工のトップエンジニアはティーターズの技術官・官として招聘され、グリブスでの開発の指揮を執ったのだ。

もともと、旧公国系技術を採用しなかったため、開発は其だ非効率的なものとなった。旧公国系の技術の導入で解決されていた問題を、敢えて別の手段で乗り越えることが、開発陣には求められたのだ。

・ 年戦争時のMSの機体構造は、公開前においてはモノコック構造、連邦前においてはセミ・モノコック構造が採用されていた。両者には一長一短があり、戦後は両者を機体構造の中で必要に応じて採用するという形が多かった。

だが、ティームズの技術者たちは連邦系技術の
 純血主義のト、開発を行わねばならなかった。彼ら
 がコア・ブロック・システムが機体管制を行う 機
 としての役割を持つことに注目し、RGM 79 系の機体
 はユニット化された構造を持っていたが、これを部品
 位ではなく、機組によって分け、機体の可動部分を
 1系統の構造で済ませてしまおうと構えた。こうして
 生まれたのが可動する格格、ムーバブル・フレーム
 だった。

開発コンセプトの立ち位置こそ保守的だったが、既存の連射製技術をベースに問題点の解決を図らねばならないという制約は、逆に開発陣の意欲と発想力を高める結果となったといえる。しかも、ティーターズには開発陣の提案が即ち斬新なものであっても採用し、販売のものとして普世させる、潤沢な資

金力があった。

もともと、ティターズの主力機とされていた RGM-79Q シム・クエルに代わる高性能機の早期投入のため、RX 178 の開発は急がれた。画期的な技術を採用しながらも、この機体は設計そのものに多くの改良の余地を残すものだった。

ムーバブル・フレームの能力を最大限に引き出すには、ガンダリウム系の新素材導入が不可欠だった。しかし、本機の完成時、ガンダリウムγの製造、加工を完了していたのは地球側ではAE社だけだった。

ゆえに、開発史上において、RX 178は第1世代から第2世代へと移行する中で生み出された、過渡期の機体として定義される。極端な表現をするなら、第1.5世代の機体であった。

完成したRX 178を開発者の一人は「旧型機」と自嘲的に評したといわれるのもこのためであろう。事実、この機体のトライアルが行われていた時点において、A E社は第2世代機のリック・ティースを完成してはいた。しかも、この第2世代機を運用したエウロギが、試作された2機のRX 178を主催するという事件さえ起こってしまった。

結局、RX-178は試作機の完成に留まり、量産は見送られた。ティターンズにとってRX-178は満足のいくガンダムたりえなかったのだ。

RX-178 に十分な評価を与えたのは、皮肉にも A E 社であり、これを運用したエウゴであった

エウーグによる本機の強奪をきっかけに勃発した
ギリブス戦役は、それまで続いたMS開発の停滞を
一気に解消するものとなっていく。A.E.社の開発した
リック・ディアスを嚆矢とする第2世代機が最先端
であったのも、わずかな期間だった。⁴⁷

第3世代のMS・可変機構を持つことで移動力を強化されたMSが、戦場に姿を見せたのだ。そして、この可変機構を実現せしめた画期的な新技術こそ、第2世代MSで導入されたムーバブル・フレームだったのである。

よりリアルな雄姿を追求する新ブランド“RG”登場

ガンプラ生誕30周年を飾るにふさわしい、真打ち登場! といえるアイテムがついにリリース!

第1弾は

RG 1/144 RX-78-2 ガンダム

価格 999円 税別 7月24日発売 発売元 バンダイ



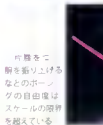
ガンプラの第1弾 1/144 ガンダム が発売されたのは、80年7月24日! それから30年の月日が流れ、同じ1/144スケールで、30周年に迎えた技術を進んだガンダムが、新たなブランドの第1弾キットとして発売されることになる。

RGとも呼ばれたこのブランドは、1/144スケールながら、見ると今から15年前にリリースされた第2次ガンダムシリーズを彷彿とさせる。しかし実は、ランナーから切り離しただけで可動ギミックが組み立て済みのハイになる。アドバンスドMSシールドと呼ばれる両側の新方式を内部フレームに採用しているのだ。

しかもその可動域はMGのそれと同等だという。足回りは組み立てのような緻密さで、かつてないレベルでの色分けがなされ、繊細なディテールを持つ。手軽に組み立て可能でありながら、組み立てる楽しさ自体も味わわせてくれるキットとなっている。手の平に収まる約13センチの大きさながら、そこには圧倒されるような存在感と精密さ、手軽さと満足度が共存し、驚くべき完成度の高さを誇っているのだ。

このRGシリーズ、組み立ててみれば必ず、その良さが理解できるはずだ。

アドバンスドMSシールドによる内部フレーム。精密なディテールと広い可動域を持ちながら、きわめて簡単組み立てることができる。



ランナー一枚で、1/144スケールで、可動域は、ほぼ100%!



新たな1/144ガンダムプロジェクトが御賞で幕を開けた!

御賞では、ガンプラ生誕30周年を記念した「RG 1/144ガンダムプロジェクト」が2011年1月10日まで開催。そのシンボルが、新たにビーム・サーベルを新装した18mガンダム立像「ガンプラRG 1/144 RX-78-2ガンダム」だ!

なお10月11日~11月30日は、ガンダムの演出遊び「タッチ＆ワーク」、オフィシャルショップ、飲食ブースは休止となる。

2011年1月11日以降も、「御賞水戸フェア」が続く。2011年3月27日まで、ガンダム立像を見ることは可能。



HY2011 1/12 RX-78-2 ガンダム アニメーションカラーバージョン 最終生産モデル予約受付中!

“大人向けガンダム”として話題を呼んだ、全高1.5mの1/12スケールガンダム。多くのバリエーション展開をしてきたガンダムだが、ガンプラ30周年にあわせた最終生産版が、プレミアムバンダイにて予約受付中。最後を飾るカラーリングは、アニメ版をイメージした新装モデルが追加されたバージョン。欲しいと思ったガンダムファンのおみえさん、これが本当のラストチャンスだ。



プレミアムバンダイ ホームページ
<http://p-bandai.jp/>

川口 人



のどことプロモ主眼 第3回 上手に作ることも、楽しく作ることも考えよう

日本人は生真面目な人が多いのか、趣味・娯楽に際しても全力投球で臨むという方が多いようだ。ガンプラについても同様で、「どうせ作るなら上手に作りた、キレイに作りた」とは誰しもが思うところだが、完璧を期す事柄が推進すると、「いつまで」という段で手が遅くなることも、往々にしてある。

「専用の道具が要るんじゃないか」「特別な材料が要るんじゃないか」「特別なスキルが要るんじゃないか」……などと、失敗への不安に駆られる心のよとてが欲しくなり、マニュアル化されたHow-toを求めたくなる。

しかし何事にも最初というものはある。エースと呼ばれる選手が子供の頃から

150キロの球を投げたという訳でもないし、三冠王と呼ばれる大投手だとしても最初は素人球からスタートしているはず。プロモデラーと呼ばれる人たちは、最初からプロモデラーであった訳ではない。知識やスキルは、趣味として続けていく間に培われる。上手くなることで目的になるとと理解を感ずることもあるし、挫折を味わうとやめてしまふものもあるだろう。

子供の頃に、壊れたプラモを合体させて最強ロボをでっち上げたという人は、たくさんいると思う。40代以上の人は、風呂で散々遊んだガンプラの部品をいっしょに貼り付けて、最強戦艦を作るつもりがアイアンロックス(「ワルトラゼン」に登場した軍艦ロボット)になってしまった……とい

う人も絶対にいるはず。真実ではあるが、作っている時は楽しかったはずである。「真面目」な人になる人は、そんなヤチャは許せないかもしれない。だけど、完成までの決められたプロセスを正確にトレースすることが模型趣味だとすると、それは自由でも興味が尽きるとも無難なものになる。上手くなりたという気持ち持ちは勿論大事だが、それ以上に「家」にこの模型を作る、という気分を忘れないでいた方がいい。失敗もあるだろうが、好奇心と想像力を駆動しなさいがらうが、好奇心で型に倣っていくと、思わぬ結果、効果を出せることもある。

「俺、スゲェじゃん」という気分は、次の製作へとつながっていくものなのだ。

今号の
お気に入り
作品

SDガンダム三銃星より、
最強ガンダム



川口 人

バンダイ・ホビー事業部に勤務。モデラー・イラストレーターとして、MS系模型のフルスケールなど各種ガンダム製品「プラモ」の制作・販売に携わる。MSVの企画なども手がける。現在もメーカー・モデラー両方の立場からプラモを愛し続けている。

GUNDAM MS HISTORICA

全6巻予定 各巻定価690円(税込) A4判変型
角質 中とじ オールカラー 36ページ

次号 Vol.4 8月24日発売

特集

驚異の鬼神 —ニュータイプ専用ガンダム

突出した戦闘能力を持つニュータイプ・パイロットたち。彼らだけが搭乗を許されたガンダムを、徹底的に紹介!

紹介機種 ▶ RX-93 νガンダム RX-78NT-1 アレックス MRX-009 サイコ・ガンダム MRX-010 サイコ・ガンダム Mk-II

好評発売中!

Vol.1 白の伝説
—初代ガンダム



紹介機種 RX-78-2 ガンダム

Vol.2 Gを継ぐもの
—ガンダム直系機



紹介機種 RX-78-2 ガンダム
RX-178 ガンダム Mk-II
RX-79(G) 陸戦型ガンダム
RX-79(G) Ez-8 ガンダム Ez8

刊行予定

Vol.5 9月24日発売予定

宇宙を震わせる脅威
—重量級ガンダム



紹介機種
MSZ-010 ZZガンダム
RX-78GP01 ガンダム試作1号機
RX-78GP02A ガンダム試作2号機
RX-78GP03 ガンダム試作3号機

Vol.6 10月23日発売予定

Gを超え、
先へと進むもの
—進化系ガンダム



紹介機種
RX-0 ユニコーンガンダム
F91 ガンダム F91
LM312V04 Vガンダム

高みへの飛翔

Zガンダム特集	02
天翔ける翼を持つガンダム	04
The Architecture of MSZ-006 Zガンダムの設計思想	07
ウェーブライダー	08
Weapons of MSZ-006	10
Zガンダムの遺伝子	11
MSZ-006 Zガンダム 闘いの記録	12

V2ガンダム特集	16
ガンダムの究極進化形	16
The Architecture of LM314V2 V2ガンダムの設計思想	18
V2ガンダムのユニット・システム	18
Weapons of LM314V2	20
LM314V2 V2ガンダム 闘いの記録	23

GUNDAM SIDESTREAM ガンダム・サイドストーリー

第3回 SDガンダム・テレビアニメ編	26
--------------------	----

ガンダム狂四郎 やまと虹一

作品ナンバー3 パーフェクト・アーマー・ガンダム	28
--------------------------	----

ガンダムの世紀 皆河有伽

第3回 ガンダムという名の利権	29
-----------------	----

GUNPLA Revelations ~ガンプラ30年の歩み~

第3回 技術の粋を集めた究極のガンプラ、PG	33
------------------------	----

GUNPLA FRONT LINE 30th

川口名人のとことんプラモ主義 川口克己	34
---------------------	----

第3回 上手く作ることも、楽しく作ることを考えよう	34
---------------------------	----

Editor 月刊	
-----------	--

Writer 月刊	
-----------	--

Illustration (原画) 月刊	
----------------------	--

Design 月刊	
-----------	--

Special Thanks サンライズ	
----------------------	--

最新情報はガンダムオフィシャルズ公式 Web まで
<http://www.gundamofficials.com/>

Official File Magazine ガンダム MS ヒストリカ Vol.3

2010年7月24日(第1刷発行)

発行人 大竹永介
編集人 米田浩二郎
発行所 株式会社 講談社
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
電話 出版部 03-5395-3491
コミック販売部 03-5395-3608
営業部 03-5395-3603

製版所 株式会社二葉企画
印刷所 共同印刷株式会社
製本所 本村製本株式会社

印刷・デザイン

Printed in Japan NDC 726 34p 30km
定価は表紙に表示してあります。

※本誌・本誌とは購入者以外に譲渡する、複製・転載等を行うことは、
著作権法に違反する行為と見做されます。なお、本誌の内容についてお問い合わせは、
グンダム・マガジン編集部にお送りください。
※本誌の無断転載(コピー)は著作権法上の権利を侵害し、禁じられています。

ISBN978-4-06-370080-0

ANA



ANA×GUNDAM SKY PROJECT

ANA×GUNDAM ジェット登場! さらにANAオリジナルカラーのガンプラ期間限定発売中!

詳しくはスペシャルサイトで

www.ana.co.jp/gundam



©新機 サンライズ

OFFICIAL FILE MAGAZINE

GUNDAM
MS HISTORICA Vol. 3

雑誌 60252-56

ISBN978-4-06-370080-0

C9472 ¥657E (0)

定価 本体657円(税別)

講談社



9784063700800



1929472006572